

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	東海財務局長
【提出日】	2020年6月25日
【事業年度】	第71期（自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）
【会社名】	旭精機工業株式会社
【英訳名】	ASAHI-SEIKI MANUFACTURING CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	取締役社長 山口 央
【本店の所在の場所】	愛知県尾張旭市旭前町新田洞5050番地の1
【電話番号】	0561(52)5356
【事務連絡者氏名】	常務取締役 神谷 真二
【最寄りの連絡場所】	愛知県尾張旭市旭前町新田洞5050番地の1
【電話番号】	0561(52)5356
【事務連絡者氏名】	常務取締役 神谷 真二
【縦覧に供する場所】	旭精機工業株式会社東京支店 (東京都文京区湯島一丁目6番3号) 株式会社名古屋証券取引所 (名古屋市中区栄三丁目8番20号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次		第67期	第68期	第69期	第70期	第71期
決算年月		2016年3月	2017年3月	2018年3月	2019年3月	2020年3月
売上高	千円	12,200,059	13,208,252	13,768,641	14,400,412	13,941,653
経常利益	千円	538,018	474,913	575,967	618,872	359,258
当期純利益	千円	350,714	292,567	372,013	764,258	404,480
持分法を適用した場合の投資利益	千円	-	-	-	-	-
資本金	千円	4,175,416	4,175,416	4,175,416	4,175,416	4,175,416
発行済株式総数	千株	30,887	30,887	3,088	3,088	3,088
純資産額	千円	13,112,591	13,607,074	14,280,523	12,924,405	12,550,395
総資産額	千円	18,950,522	19,867,074	20,581,996	19,031,541	18,502,235
1株当たり純資産額	円	4,610.15	4,784.63	5,022.56	5,358.83	5,207.56
1株当たり配当額 (うち1株当たり中間配当額)	円	6.0 (-)	6.0 (-)	70.0 (-)	70.0 (-)	70.0 (-)
1株当たり当期純利益金額	円	123.29	102.87	130.82	308.38	167.73
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額	円	-	-	-	-	-
自己資本比率	%	69.19	68.49	69.38	67.91	67.83
自己資本利益率	%	2.69	2.19	2.67	5.62	3.18
株価収益率	倍	17.03	22.35	18.81	7.94	12.52
配当性向	%	48.66	58.31	53.51	22.70	41.73
営業活動によるキャッ シュ・フロー	千円	942,484	845,615	965,177	212,732	1,387,665
投資活動によるキャッ シュ・フロー	千円	961,896	1,174,911	435,202	476,745	753,807
財務活動によるキャッ シュ・フロー	千円	185,132	180,757	185,820	1,292,798	617,228
現金及び現金同等物の期末 残高	千円	4,712,485	4,202,379	4,546,500	2,990,116	4,241,168
従業員数	人	500	497	506	512	531
株主総利回り (比較指標:配当込み TOPIX)	% %	76.6 (89.2)	85.8 (102.3)	94.0 (118.5)	96.1 (112.5)	86.2 (101.8)
最高株価	円	290	249	2,798 (319)	2,598	2,527
最低株価	円	189	186	2,400 (227)	2,081	1,705

- (注) 1. 当社は連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。
4. 従業員数は、就業人員数を表示しております。
5. 当社は、2017年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っております。第67期の期首に当該株式併合が行われたと仮定して1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益金額を算定しております。
6. 最高株価及び最低株価は名古屋証券取引所(市場第二部)におけるものであります。なお、第69期の株価については株式併合後の最高・最低株価を記載し、()内に株式併合前の最高・最低株価を記載しております。
7. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第70期の期首から適用しており、第69期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

2【沿革】

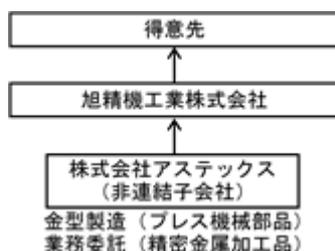
- 1953年 8月 資本金 8 千万円で旭大隈工業株式会社として設立。各種銃弾類の製造開始。
- 1958年12月 自動連続プレス（マルチフォーミングマシン）の製造開始。
- 1961年 1月 東洋精機株式会社から銃弾の製造販売に関する営業権を譲り受け、以後わが国唯一の小口径銃弾メーカーとなる。
- 1961年 5月 社名を旭精機工業株式会社に変更。
- 1961年10月 名古屋証券取引所市場第二部へ上場。
- 1969年 3月 ばね機械の製造開始。
- 1970年 5月 コイニングプレスの製造開始。
- 1971年11月 自動機・専用機の製造開始。
- 1972年12月 タッピングユニットの製造開始。
- 1979年 1月 航空機部品の製造開始。
- 1979年 6月 ばね機械のCNC化に成功。
- 1983年 6月 パーチカルフォーミングマシンの製造開始。
- 1996年 9月 小口径銃弾を除く全製品についてISO9001認証を取得。
- 2000年10月 パソコン制御のばね機械の製造開始。
- 2002年 7月 iT P - 6 0（プレス機械）の製造開始。
- 2002年 9月 ISO14001認証を取得（本社・本社工場）。
- 2003年 7月 SCP - 1 0 0（プレス機械）の製造開始。
- 2003年 8月 Transub01（搬送装置）の製造開始。
- 2006年 5月 Transub02（搬送装置）の製造開始。
- 2006年11月 CF X - 1 2（ばね機械）製造開始。
- 2007年 1月 US X - 8（ばね機械）の製造開始。
- 2007年11月 US X - 5（ばね機械）の製造開始。
- 2009年10月 iT P - 3 0（プレス機械）の製造開始。
- 2009年11月 iCF - 0 8 & iCF - 2 6（ばね機械）の製造開始。
- 2011年 8月 LTP - 4 5 & F 3（プレス機械）の製造開始。
- 2011年11月 T 2（ばね機械）の製造開始。
- 2011年11月 AG - 1 2 E（ばね端面研削機）の製造開始。
- 2011年11月 ISO9001認証を取得（小口径銃弾部門）。
- 2011年12月 JISQ9100認証を取得（航空機部品部門）。
- 2013年 7月 iT P - 6 0 W（プレス機械）の製造開始。
- 2014年11月 研王（ばね端面研削機）の製造開始。
- 2015年 5月 AG - 5 E（ばね端面研削機）の製造開始。
- 2015年 6月 当社製ばね機械用生産性向上システム開発。
- 2015年 7月 T 4（ばね機械）の製造開始。
- 2016年12月 神戸工場開設。
- 2019年 5月 ドイツ駐在員事務所開設。
- 2019年 7月 AG - 1 2 HD（ばね端面研削機）の製造開始。
- 2020年 3月 IATF16949認証を取得（自動車関連部品の製造）。

3【事業の内容】

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、当社及び非連結子会社1社により構成されており、精密加工事業部（主な製品名 小口径銃弾、精密金属加工品）及び機械事業部（主な製品名 プレス機械、航空機部品、ばね機械、自動機・専用機）で事業を営んでおります。また、当社グループが営んでいる主な事業内容と、関係会社の当該事業に係る位置付けは、次のとおりであります。

（精密加工事業部 及び機械事業部） 当社は、各種精密金属加工品及びプレス機械を製造販売しております。この製品の一部について、株式会社アステックス（非連結子会社）に金型の製造及び業務の委託をしております。

以上述べた事項を図によって示すと次のとおりであります。



4【関係会社の状況】

該当事項はありません。

5【従業員の状況】

(1) 提出会社の状況

2020年3月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
531	44.3	19.1	5,563

セグメントの名称	従業員数(人)
精密加工事業部	282
機械事業部	184
報告セグメント計	466
全社(共通)	65
合計	531

- (注) 1. 従業員数は就業人員数(当社から社外への出向者を除く。)であります。
2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
3. 全社(共通)として記載されている従業員数は、管理部門に所属しているものであります。

(2) 労働組合の状況

当社の労働組合は、旭精機工業労働組合と称し、2020年3月31日現在の組合員数は383名で「JAM」に加盟しており、労使関係は相互信頼を基調として安定しております。

第2【事業の状況】

1【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当事業年度末現在において当社が判断したものであります。

(1) 経営方針

当社は、「確かな物づくりを通して、社会に貢献し、企業のたゆみない発展をめざす。」という経営理念のもと、次の経営方針を掲げております。

- ・ 顧客により製品をより安くより早く提供できるよう努力する。
- ・ 地域社会と共存し、自然環境を大切にす。
- ・ 正しい倫理観を持ち、誠実と公正に徹する。
- ・ 明るい活気のある会社づくりに努める。

この方針に基づき、価格・品質・納期・安全のすべてにおいて最高水準を確保した製品を生産・供給し社会の繁栄、発展に寄与することが、事業の使命であると考えております。

この使命を果たすため、メーカーとして市場の声に基づいた技術開発が不可欠であるとの認識のもと、研究開発体制の強化に努め、顧客の最新のニーズを常に収集し、新技術・新製品の開発に積極的に取り組んでおります。

(2) 経営戦略等

〔精密加工事業部〕

精密金属加工品

価値作業比率・稼働率・品質の向上、生産管理機能・マネジメント力・固有技術・潜在技術等の強化を目的とした「Do Now! 改革活動」を進めております。この活動により従来の各部署が担う役割のテリトリーを超えて、新規製品の受注獲得へ注力するとともに、適正在庫を目指す在庫管理体制の強化に取り組んでおります。

また、企業成長に欠かせない社員教育におきましても、特にミドルマネジメント層の強化を図るため、自律的な改善推進等に取り組んでおります。

市場開拓におきましては、自動車市場におけるEVを始めとした脱内燃機関用の自動車部品市場に向けた新製品の獲得に取り組んでまいります。

小口径銃弾

顧客からの高度な要求水準に応えるために、常に基礎技術の蓄積に努めるとともに、更なる高性能及び高品質な銃弾製造に取り組んでおります。

また、引き続き製造に携わる全従業員の教育を徹底してまいります。

〔機械事業部〕

プレス機械

市場調査を徹底するためにマーケティング部門の強化策として、独立したチームを設置しマーケティング活動の高度化に努めたうえ、情報の共有化・市場動向の的確な把握を行い、プレス機械の開発及び販売に取り組んでおります。

ばね機械

IoT、AIを活用した高機能・高品質な製品開発に取り組んでおります。

また、海外市場につきましては、海外駐在員事務所（ドイツ）を中心に欧州市場の開拓を行うとともに、製品の常設展示場の設置及び海外展示会の活用による北米市場の開拓に取り組んでおります。

航空機部品

製品受注状況及び今後の受注見込みに応じて、本社工場と神戸工場の2拠点間における部品製造の集約化と加工効率の向上を踏まえた生産計画を作成し、全社最適生産体制の構築に取り組んでおります。

自動機・専用機

顧客との信頼関係の維持・向上に努めながら、市場動向を見据えた付加価値の高い製品開発・販売に取り組んでまいります。

(3) 経営環境

今後のわが国経済は、引き続き新型コロナウイルス感染症の影響が懸念される等、予断を許さない状況が続くものと思われま。このような情勢のもと、当社は、社員の安全確保と社内外への新型コロナウイルス感染症の防止に取り組みながら、市場動向の的確な把握に向けたマーケティングの強化を行うとともに、より一層の生産性の向上及びコスト削減の徹底に注力し、顧客満足度の高い新製品の開発、画期的な新技術の追求、市場への発信強化を図り、業績の向上に向け鋭意努力してまいります。

(4) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

〔精密加工事業部〕

精密金属加工品

従来市場に留まらず、今後の成長が見込まれる市場への新製品の販路開拓を目指しつつ、労働生産性の追求による効率的な生産体制の向上等に取り組んでまいります。

小口径銃弾

小口径銃弾生産に求められる高性能及び高品質の追求、並びにその生産過程における安全な生産体制の徹底に取り組んでまいります。

〔機械事業部〕

プレス機械

自動車業界向けを中心とした電池缶の市場動向の把握と予測を行いつつ、製品主流に沿ったプレス機械の開発及び販売に取り組んでまいります。

ばね機械

多種多様な顧客ニーズに応えるために、製品ラインナップの強化と海外販路の拡大に取り組んでまいります。

航空機部品

航空機業界における生産計画の変動に対応できる生産体制の効率化に取り組んでまいります。

自動機・専用機

自動車業界を中心とする市場動向の変化に対応した製品開発・販売に取り組んでまいります。

〔財務上の課題〕

新型コロナウイルス感染症の拡大に対応すべく、手元資金の安定確保を図ってまいります。

(5) 経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等

当社は、収益面での経営指標を重視しておりますので、売上高を伸ばしながら、かつ継続的にコストダウンに努め、営業利益率を高めることで高収益企業として成長し続けてまいりたいと考えております。

2【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が提出会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があると認識している主要なリスクは、以下のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当事業年度末現在において当社が判断したものであります。

(1) 小口径銃弾事業に関するリスク

小口径銃弾は、その納入先のほぼ100%が防衛省であり、毎年当社の売上高に占める割合が高く、当社業績における重要度はきわめて高いものがあります。しかし、官需という性質上、売上高は政府の予算執行に左右され、今後の政府の政策等の変更によって発注額が大きく減少した場合、当社の業績に大きな影響を与える可能性があります。

(2) 航空機メーカー等の生産計画の大幅な変更等に関するリスク

当社は、旅客機の主翼の部品などをはじめとする航空機部品の加工を手掛けておりますが、航空機メーカー等における生産計画の大幅な変更等が生じた場合、当社の業績に大きな影響を与える可能性があります。

(3) 金属材料の価格変動に関するリスク

ニッケル、鉄、銅等の金属材料の価格は、経済情勢に伴い大きく変動する場合があります、これは当社の業績に大きな影響を与える可能性があります。

(4) 精密加工品事業における業界動向等に関するリスク

当社の精密金属加工品は、売上の半数以上が自動車関連部品であり、自動車業界及び自動車関連業界の影響を受けており、これらの業界において想定を上回る技術革新や産業構造の急速な変化等が生じ、かかる事態に対応できない場合、当社の業績に大きな影響を与える可能性があります。

(5) プレス機械、自動機・専用機、ばね機械における顧客動向等に関するリスク

当社のプレス機械、自動機・専用機、ばね機械は、幅広い顧客の要求に対応すべく品質の向上、納期の短縮、新製品の開発などに取り組んでおりますが、今後、顧客をとりまく環境が急速に変化するなどで顧客の要求水準が想定外に上がり、これに対応できない場合、当社の業績に大きな影響を与える可能性があります。

(6) 退職給付債務に関するリスク

退職給付債務及び退職給付費用は、割引率や長期期待運用収益率など見積り数値である基礎率に基づいて計算を行っております。このため、見積りに対応する実績値や見積りの前提となる環境等の変動によっては、当社の業績及び財政状態に大きな影響を与える可能性があります。

(7) 取引先の信用リスク

当社は取引先毎に適正な与信管理を行い、回収リスクの低減に努めていますが、取引先の倒産等不測の事態により債務不履行が生じた場合、当社の業績に大きな影響を与える可能性があります。

(8) 不正行為等によるリスク

当社は、内部統制基本方針を定め、その充実・強化を図っております。業務運営において役員、社員の不正及び不法行為の防止に万全を期しておりますが、万一かかる不正行為等が発生した場合、当社の業績及び財政状態に大きな影響を与える可能性があります。

(9) 自然災害・感染症等に関するリスク

当社は国内に本社工場の他、複数の拠点を有しており、これらの地域において地震や台風等の自然災害や未知の感染症の流行等が発生した場合、生産、物流などに支障をきたし事業活動の遂行が阻害される可能性があります。

特に本社工場が位置する東海地方は、東海地震、東南海地震等大規模地震の発生する可能性が高いと言われております。当社では、これら大規模地震の発生に備え、BCP（事業継続計画）の整備を進めるなど被害の拡大を軽減するための施策に可能な範囲で取り組んでおりますが、かかる大規模地震が発生した場合には、これらの施策にもかかわらず、工場・生産設備等の毀損、通信・交通網の遮断等による生産活動の中断、物流ルートの寸断などが生じ、当社の業績及び財政状態に大きな影響を与える可能性があります。

3【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績等の状況の概要

当事業年度における当社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下「経営成績等」という。）の状況の概要は次のとおりであります。

財政状態及び経営成績の状況

当事業年度におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善を背景に緩やかな回復基調を示してきたものの、各国の通商政策をはじめとする海外経済の不確実性や、年央の自然災害や消費税増税による消費マインドへのマイナス影響に加え、年度後半の新型コロナウイルス感染症拡大による国内外経済への影響により厳しい状況となってきました。

このような状況のもと当社におきましては、新製品及び新技術の開発、市場への発信力の強化、生産性の向上、コスト削減の徹底等に注力してまいりましたが、売上高は139億4千1百万円と前期比3.2%の減少、利益面につきましても、精密金属加工品において自動車関連部品の受注減の影響を受けたこと、展示会出展費用及び研究開発費が増加したこと等から、営業利益は2億8千8百万円と前期比48.8%の減少、経常利益は3億5千9百万円と前期比41.9%の減少、当期純利益は保有する投資有価証券の一部を売却し特別利益を計上したものの、4億4百万円と前期比47.1%の減少となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

〔精密加工事業部〕

精密加工事業部における当事業年度の売上高は、73億9千7百万円と前期比1.9%の減少となり、その内容は以下のとおりです。

a. 精密金属加工品

当事業年度の売上高は、主に自動車関連部品及び水晶振動子関連部品が減少したことから、40億9千9百万円と前期比7.7%の減少となりました。

b. 小口径銃弾

当事業年度の売上高は、政府の予算執行を受け、32億9千7百万円と前期比6.4%の増加となりました。

〔機械事業部〕

機械事業部における当事業年度の売上高は、65億4千4百万円と前期比4.6%の減少となり、その主な内容は以下のとおりです。

a. プレス機械

当事業年度の売上高は、主にリチウムイオン電池缶製造用プレスの輸出が増加したことから、41億7千7百万円と前期比7.2%の増加となりました。

b. ばね機械

当事業年度の売上高は、主にコイルばね成形用の製品が減少したことから、7億6千7百万円と前期比19.2%の減少となりました。

c. 航空機部品

当事業年度の売上高は、旅客機用部品が増加したことから、7億6千万円と前期比16.7%の増加となりました。

d. 自動機・専用機

当事業年度の売上高は、自動車関連向けが減少したことから、7億4千4百万円と前期比26.1%の減少となりました。

財政状態は次のとおりであります。

(流動資産)

当事業年度末における流動資産の残高は、107億9千1百万円（前事業年度末は106億3千5百万円）となり、1億5千6百万円増加いたしました。これは主に、売上債権の回収により売掛金が7億1千9百万円及び電子記録債権が2億7百万円それぞれ減少したものの、短期借入金の増加等により現金及び預金が12億5千1百万円増加したことによるものであります。

(固定資産)

当事業年度末における固定資産の残高は、77億1千万円（前事業年度末は83億9千6百万円）となり、6億8千5百万円減少いたしました。これは主に、金属加工機械製造設備の拡充等により機械及び装置で2億5千6百万円増加したものの、保有株式の一部売却及び市場価格の下落により投資有価証券が8億5千4百万円減少したためであります。

この結果、総資産は185億2百万円（前事業年度末は190億3千1百万円）となり、5億2千9百万円減少いたしました。

(流動負債)

当事業年度末における流動負債の残高は、50億7百万円(前事業年度末は49億7千4百万円)となり、3千3百万円増加いたしました。これは主に、仕入債務の減少により電子記録債務が3億4千1百万円及び買掛金が2億2千5百万円それぞれ減少したものの、短期借入金が8億円増加したためであります。

(固定負債)

当事業年度末における固定負債の残高は、9億4千4百万円(前事業年度末は11億3千2百万円)となり、1億8千8百万円減少いたしました。これは主に、保有株式の市場価格の下落によりその他有価証券評価差額金等にかかる繰延税金負債が2億1千5百万円減少したためであります。

この結果、負債合計は59億5千1百万円(前事業年度末は61億7百万円)となり、1億5千5百万円減少いたしました。

(純資産の部)

当事業年度末における純資産の部の残高は、125億5千万円(前事業年度末は129億2千4百万円)となり、3億7千4百万円減少いたしました。これは主に、当期純利益の計上等により繰越利益剰余金が2億3千5百万円増加したものの、保有株式の一部売却や市場価格の下落によりその他有価証券評価差額金が6億5百万円減少したためであります。

キャッシュ・フローの状況

当事業年度における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は減価償却費の計上等により12億5千1百万円増加し、当事業年度末には42億4千1百万円(前年同期比41.8%増)となりました。

また当事業年度中における各キャッシュ・フローは次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当事業年度において営業活動による資金の増加は13億8千7百万円(前年同期比552.3%増)となりました。これは主に、仕入債務が6億4千1百万円減少したものの、売上債権が9億2千7百万円減少したこと、減価償却費を8億1千4百万円及び税引前当期純利益を5億4千7百万円計上したことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当事業年度において投資活動による資金の減少は7億5千3百万円(前年同期比58.1%減)となりました。これは主に、投資有価証券の売却により2億9百万円増加したものの、有形固定資産の取得で9億1千7百万円支出したことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当事業年度において財務活動による資金の増加は6億1千7百万円(前年同期は12億9千2百万円の減少)となりました。これは主に、配当金で1億6千8百万円支出したものの、短期借入金が増加したことによるものであります。

生産、受注及び販売の実績

a. 生産実績

当事業年度の生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当事業年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)	前年同期比(%)
精密加工事業部(千円)	7,432,411	98.9
機械事業部(千円)	6,622,100	96.3
合計(千円)	14,054,511	97.7

- (注) 1. 金額は販売価格によっており、セグメント間の内部振替前の数値によっております。
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

b. 受注実績

当事業年度の受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高(千円)	前年同期比(%)	受注残高(千円)	前年同期比(%)
精密加工事業部	7,068,330	91.1	3,050,034	90.3
機械事業部	4,493,325	60.0	2,949,509	59.0
合計	11,561,656	75.9	5,999,543	71.6

- (注) 1. セグメント間の受注については相殺消去しております。
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

c. 販売実績

当事業年度の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当事業年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)	前年同期比(%)
精密加工事業部(千円)	7,397,216	98.1
機械事業部(千円)	6,544,436	95.4
合計(千円)	13,941,653	96.8

(注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。

2. 最近2事業年度の主な相手先別の販売実績及び総販売実績に対する割合は、次のとおりであります。

相手先	前事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)		当事業年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)	
	金額(千円)	割合(%)	金額(千円)	割合(%)
防衛省	3,033,867	21.1	3,201,138	23.0
Shenzhen Kedali Industry Co., Ltd.	1,756,334	12.2	2,376,668	17.0
イーグル工業株式会社	1,727,506	12.0	1,647,461	11.8

3. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当事業年度末現在において判断したものであります。

財政状態及び経営成績の状況に関する認識及び分析・検討内容

〔精密加工事業部〕

売上高は、精密金属加工品の減少により73億9千7百万円(前期比1.9%の減少)、セグメント利益は、精密金属加工品の減益により7億2千3百万円(前期比19.5%の減少)、セグメント資産は、主にたな卸資産の減少により55億2千1百万円(前期比0.1%の減少)となりました。

〔機械事業部〕

売上高は、主に自動機・専用機の減少により65億4千4百万円(前期比4.6%の減少)、セグメント利益は、主に自動機・専用機の減少により3億1千5百万円(前期比15.2%の減少)、セグメント資産は、主に売上債権の減少により56億2千6百万円(前期比14.0%の減少)となりました。

キャッシュ・フローの状況の分析・検討内容並びに資本の財源及び資金の流動性にかかる情報

(資金の流動性についての分析)

キャッシュ・フローに関する詳細の記述は「(1) 経営成績等の状況の概要 キャッシュ・フローの状況」に記載したとおりであります。また、当社のキャッシュ・フロー指標のトレンドは、次のとおりであります。

(キャッシュ・フロー指標のトレンド)

	第69期	第70期	第71期
自己資本比率(%)	69.4	67.9	67.8
時価ベースの自己資本比率(%)	34.0	31.0	27.4
キャッシュ・フロー対有利子負債比率(年)	0.9	4.2	1.2
インタレスト・カバレッジ・レシオ(倍)	199.6	46.9	192.0

自己資本比率：自己資本 / 総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額 / 総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率：有利子負債 / キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：キャッシュ・フロー / 利払い

(注) 1. 株式時価総額は自己株式を除く発行済株式数をベースに計算しております。

2. キャッシュ・フローは、営業キャッシュ・フローを利用しております。

3. 有利子負債は、貸借対照表に計上されている負債のうち利子を支払っているすべての負債を対象としております。

（資本の財源についての分析）

当社の資金需要のうち主なものは、製品製造のための材料・部品の購入のほか、製造に係る労務費・経費、販売費及び一般管理費等の営業費用による運転資金や設備資金であります。また、当社の財務状態といたしましては、当事業年度末における流動比率は215.5%、自己資本比率は67.8%であり比較的健全な財務状態であると認識しております。なお、運転資金及び設備資金につきましては、自己資金の他、新型コロナウイルス感染症の拡大に対応すべく、借入金を増額することにより手元資金の拡充を図っております。

重要な会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

当社の財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この財務諸表の作成に当たりまして、経営者により、一定の会計基準の範囲内で見積りが行われている部分があり、資産・負債や収益・費用の数値に反映されています。これらの見積りについては、継続して評価し、必要に応じて見直しを行っていますが、見積りには不確実性が伴うため、実際の結果は、これらとは異なる場合があります。なお、詳細につきましては、「第5 経理の状況 1.財務諸表等 (1)財務諸表 「注記事項 重要な会計方針」に記載しておりますが、特に次の重要な会計方針が財務諸表作成における重要な見積りの判断に大きな影響を及ぼすと考えております。

（貸倒引当金）

当社は、売上債権等の貸倒損失に備えて回収不能となる見積額を貸倒引当金として計上しております。将来、得意先の財務状況が悪化し支払能力が低下した場合には、引当金の追加計上または貸倒損失が発生する可能性があります。

（繰延税金資産）

当社は、繰延税金資産の回収可能性を評価するに際しまして将来の課税所得を合理的に見積っております。繰延税金資産の回収可能性は将来の課税所得の見積りに依存しますので、新型コロナウイルス感染症拡大等によりその見積額が減少した場合、また、税率変更を含む税制の改正等があった場合には、繰延税金資産が減額され税金費用が計上される可能性があります。

（有価証券の減損処理）

当社は、有価証券を保有しておりますが、時価のあるものについては、新型コロナウイルス感染症拡大等により市場価格が悪化した場合に、また時価のないものについては、投資先の財政状態の悪化等の事象が認められた場合に減損処理を行うこととしております。

（退職給付引当金）

退職給付費用及び債務の算定については、割引率や年金資産の長期期待運用収益率等の多くの見積りが存在します。実際の結果が前提条件と異なる場合、または前提条件が変更された場合、法改正や採用する退職給付制度の変更がある場合に発生する数理差異は将来期間において償却されるため、将来の退職給付費用及び債務に大きな影響を与える可能性があります。

経営方針・経営戦略、経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等

当社は、2018年4月26日に策定いたしました2021年3月期を最終年度とする3ヵ年の「2020事業計画」につきまして本事業計画策定時に想定しました事業環境が大きく変化したことから、取り下げることにいたしました。

当社は「2020事業計画」達成に向け、第三組立工場の新設によるプレス機械の生産性向上、自動車業界向けの精密金属加工品の拡販等に取り組んで参りましたが、航空機事業の量産の延期や減産に加え、新型コロナウイルス感染症拡大による国内外におけます経済全体の停滞および終息時期が不透明となっていることにより機械事業部及び精密加工事業部の経営環境が「2020事業計画」を策定した想定を超える事態となり、目標達成が困難になったと判断するに至りました。

4【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

5【研究開発活動】

当社では、従来から顧客ニーズに密着した研究開発を進めてまいりました。このため精密加工事業部及び機械事業部にそれぞれ技術開発部を置き、担当分野に係る研究開発に取り組んでおります。また、中長期的な視野から商品の企画を行うため、次世代企画室において次世代商品に係る要素技術の研究に取り組んでおります。更に、機械から人を離していき、クリエイティブで多様な働き方ができる未来に向けた、機械開発に係るビジョン『ALPHANOMOUS（アルファノマス）』を新たに発表し、専門部署としてアルファノマス推進室を新設したうえで、具現化に向けて取り組んでおります。

なお、研究開発費については各セグメントに配賦できない研究費用8,170千円が含まれており、当事業年度における研究開発費は、総額で125,316千円となりました。

セグメント別の研究開発の概要は、次のとおりであります。

[精密加工事業部]

精密加工事業部における当事業年度の研究開発費は、60,426千円となり、その内容は以下のとおりです。

(1) 基礎研究

加工対象となる素材そのものの調査研究はもとより、顧客のニーズに最も適合する加工方法の開発をめざして基礎的な調査研究を行っております。以上、基礎研究に対する研究開発費は4,629千円であります。

(2) 精密加工技術の研究

検査装置を含む最適製造システムの構築のための研究、より高精度の塑性加工技術の開発、各種弾薬の開発を行っております。また、従来技術では加工が難しいとされてきた素材に対しても加工技術の確立に努めてまいります。以上、精密加工技術の研究に対する研究開発費は55,797千円であります。

[機械事業部]

機械事業部における当事業年度の研究開発費は、56,719千円となり、その内容は以下のとおりです。

(1) 基礎研究

顧客のニーズに最も適合する加工機械の開発をめざして基礎的な調査研究を行っております。以上、基礎研究に対する研究開発費は28,989千円であります。

(2) プレス機械の研究

リチウムイオン電池缶加工専用プレス、汎用型NCフォーミング機の開発に取り組んでおります。以上、プレス機械の研究に対する研究開発費は5,197千円であります。

(3) ばね機械の研究

T2、USF-PCシリーズ、CFXシリーズ、iCFシリーズの成形領域の拡大と、新しい成形技術の確立のため、顧客要求のばね形状の試作研究を行いました。また、高速ばね研削機の開発に取り組んでおります。以上、ばね機械の研究開発費は22,531千円であります。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当事業年度は、生産設備の更新及び合理化のための投資（無形固定資産を含む）を総額995百万円実施しました。その主なものは、精密加工事業部の製造設備に495百万円及び機械事業部の製造設備に393百万円であります。なお、生産設備に重要な影響を及ぼすような固定資産の売却、除却等はありません。

2【主要な設備の状況】

当社の主要な設備は、以下のとおりであります。

2020年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額					従業員数 (人)	
			建物及び 構築物 (千円)	機械装置 及び工具 器具備品 (千円)	土地 (千円) (面積)	リース資産 (千円)	その他 (千円)		計 (千円) (面積)
本社・本社工場 (愛知県尾張旭市)	精密加工事業部 及び機械事業部	製造設備他	[18,224] 2,319,370	[27,878] 2,104,593	547,403 (286,006㎡)	10,103	129,042	[46,103] 5,110,514 (286,006㎡)	503
東京支店 (東京都文京区)	精密加工事業部 及び機械事業部	販売設備	{320㎡} -	909	-	-	3,002	{320㎡} 3,912	15
大阪営業所 (大阪府吹田市)	機械事業部	販売設備	{81㎡} -	31	-	-	3,782	{81㎡} 3,813	5
神戸工場 (兵庫県神戸市)	機械事業部	製造設備	{2,379㎡} 67,432	95,181	-	-	-	{2,379㎡} 162,613	8
従業員厚生施設 (愛知県尾張旭市他)	-	社宅・寮等	{1,516㎡} 24,425	687	100,356 (1,505㎡)	-	-	{1,516㎡} 125,469 (1,505㎡)	-
計			{4,297㎡} [18,224] 2,411,228	[27,878] 2,201,402	647,760 (287,512㎡)	10,103	135,827	{4,297㎡} [46,103] 5,406,323 (287,512㎡)	531

- (注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は、車両運搬具及び建設仮勘定の合計であります。なお、金額には消費税等を含んでおりません。
2. 建物及び構築物、機械装置及び工具器具備品の [] 内の金額は、賃貸中のもので、内書きで示してあり、主な貸与先は子会社の株式会社アステックスであります。
3. 建物及び構築物の { } 内の数字は、賃借中の建物の面積を示しております。なお、年間賃借料は、57,504千円であります。
4. 従業員厚生施設の土地の所在地は、愛知県尾張旭市1,505㎡であります。
5. 現在休止中の主要な設備はありません。

3【設備の新設、除却等の計画】

2020年3月31日現在において計画している主なものは次のとおりであります。なお、重要な設備の売却、除却等の計画はありません。

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	投資予定金額		資金調達 方法	着手及び完了予定	
			総額 (百万円)	既支払額 (百万円)		着工年月	完成予定年月
本社工場 (愛知県尾張旭市)	精密加工事業部	製造設備	378	-	自己資金	2020年4月	2021年3月
本社工場他 (愛知県尾張旭市他)	機械事業部	製造設備	92	-	自己資金	2020年4月	2021年3月

- (注) 1. 上記計画の完成後の増加能力は、算定が困難であるため記載しておりません。
2. 金額には消費税等を含んでおりません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	5,824,900
計	5,824,900

【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (2020年3月31日)	提出日現在発行数(株) (2020年6月25日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	3,088,739	3,088,739	名古屋証券取引所 (市場第二部)	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
計	3,088,739	3,088,739	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数 (千株)	発行済株式総数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増減額 (千円)	資本準備金残高 (千円)
2017年10月1日 (注)	27,798	3,088	-	4,175,416	-	3,468,202

(注) 2017年6月28日開催の第68回定時株主総会決議により、2017年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行い、発行済株式総数は27,798千株減少し、3,088千株となっております。

(5) 【所有者別状況】

2020年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)							単元未満株式の状況(株)	
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他		計
					個人以外	個人			
株主数(人)	1	11	5	63	2	-	1,730	1,812	-
所有株式数(単元)	216	3,939	55	11,376	272	-	14,897	30,755	13,239
所有株式数の割合(%)	0.70	12.81	0.18	36.99	0.88	-	48.44	100	-

(注) 自己株式678,706株は「個人その他」に6,787単元、「単元未満株式の状況」に6株含まれております。

(6) 【大株主の状況】

2020年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
古河電気工業株式会社	東京都千代田区丸の内二丁目2番3号	455	18.91
旭化成株式会社	東京都千代田区有楽町一丁目1番2号	168	7.00
オークマ株式会社	愛知県丹羽郡大口町下小口五丁目25番地の1	120	4.97
三谷伸銅株式会社	京都市南区上鳥羽大柳町1番地1	119	4.94
株式会社三菱UFJ銀行	東京都千代田区丸の内二丁目7番1号	106	4.40
東京海上日動火災保険株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目2番1号	86	3.58
岡谷鋼機株式会社	名古屋市中区栄二丁目4番18号	84	3.51
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区大手町一丁目5番5号	56	2.34
株式会社名古屋銀行	名古屋市中区錦三丁目19番17号	45	1.86
知多鋼業株式会社	愛知県春日井市前並町二丁目12番地の4	40	1.65
計	-	1,282	53.21

(注) 上記のほか、自己株式が678千株あります。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2020年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 678,700	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 2,396,800	23,968	-
単元未満株式	普通株式 13,239	-	-
発行済株式総数	3,088,739	-	-
総株主の議決権	-	23,968	-

(注) 「単元未満株式」の欄には、当社保有の自己株式6株が含まれております。

【自己株式等】

2020年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
旭精機工業株式会社	愛知県尾張旭市旭前町新田洞5050番地の1	678,700	-	678,700	21.97
計	-	678,700	-	678,700	21.97

2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第3号及び第7号による普通株式の取得

(1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	1,762	3,873,961
当期間における取得自己株式	141	280,757

(注) 当期間における取得自己株式には、2020年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

(4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他 (-)	-	-	-	-
保有自己株式数	678,706	-	678,847	-

(注) 当期間における保有自己株式数には、2020年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取り及び売渡による株式は含まれておりません。

3【配当政策】

当社は、利益配分につきましては、将来の事業展開と経営基盤の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、安定した配当を継続して実施していくことを基本方針としております。また、剰余金の配当の回数につきましては、期末配当の年1回とすることを基本方針としております。

なお、期末配当の決定機関は、株主総会であります。

当事業年度の配当につきましては、上記方針に基づき、当社をとりまく環境等を勘案して、1株当たり70円を実施することを決定しております。

内部留保資金につきましては、経営基盤の強化及び設備投資等、将来の事業展開に役立てることを基本方針としております。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)
2020年6月25日 定時株主総会決議	168,702	70

4【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1)【コーポレート・ガバナンスの概要】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、株主重視と企業価値の増大を経営の基本としつつ、企業活動を通じて顧客、取引企業、従業員、地域社会との関係を育み社会との密接な結びつきの中で法令等を遵守し、健全で透明性の高い経営を行うことを経営上の最も重要な課題の一つとして位置付け、コーポレート・ガバナンスへの取り組みの強化と徹底に努めております。

企業統治の体制の概要及び当該体制を採用する理由

当社は、業務執行の最高意思決定機関として取締役会を設置し、法令及び定款に基づき様々な意思決定を行っております。取締役会は、議長を取締役社長山口央とし、神谷真二、安藤充、工野浩義、白石憲生、松原幸弘、石村淳、社外取締役溝田義昭、社外取締役尾形昭彦、社外取締役西野充の10名で構成し、公正かつ多様な価値観に基づく意思決定を行っております。

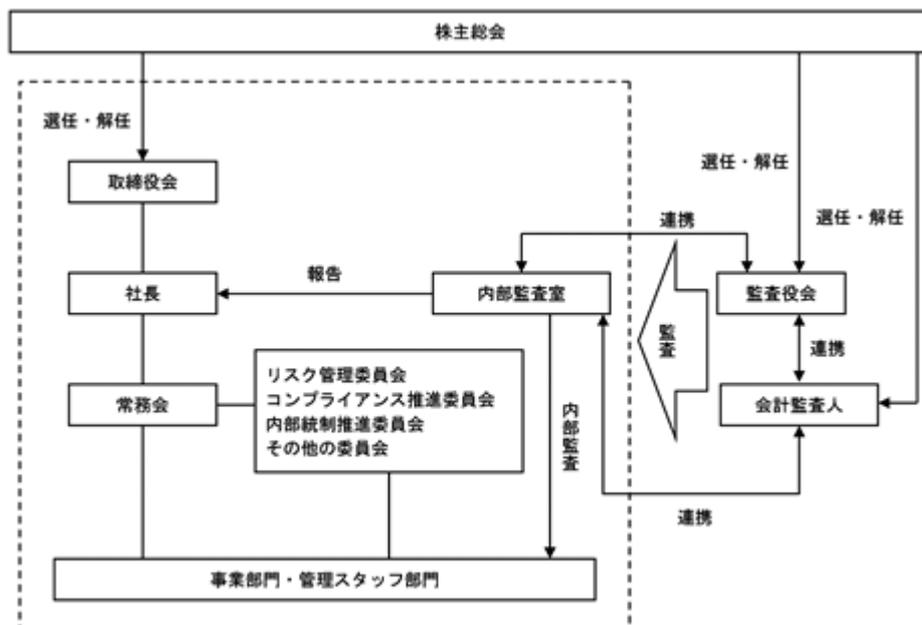
また、取締役会の意思決定のもと、諸方策を適切迅速に樹立し経営活動を有効に推進するため常務会を設置しております。常務会は、議長を取締役社長山口央とし、神谷真二、安藤充、工野浩義、白石憲生、松原幸弘、石村淳の常勤取締役7名で構成し、毎月の定例会の他、必要に応じて随時開催し、日常の業務執行の迅速化を図っております。

なお、当社は精密加工事業部及び機械事業部からなる事業部制を採用し、事業部ごとに権限の委譲と責任の明確化を行い、経営の効率化を図っております。その他として、各種の独立した専門委員会を常設し、取締役会及び常務会の監督の下、組織横断的に選任された委員が個別案件の処理を行っております。

また、当社は監査役制度を採用し、常勤監査役伊藤康裕、非常勤監査役馬場紀彰（社外監査役）、非常勤監査役上総英男（社外監査役）の計3名を選任しております。監査役は取締役会に出席し、中立の立場から必要に応じて意見を述べ、効率的な業務執行及び取締役会の執行監視を行っております。また、常勤監査役は常務会等の重要な会議にも出席し、その結果を監査役会に報告するなど取締役の業務執行状況を積極的に監視できる体制となっております。

当社が現在の企業統治体制を採用する理由は、現在の体制が当社の規模に最も適していると判断していることによるものであります。

当社のコーポレート・ガバナンス模式図



企業統治に関するその他の事項

当社の内部統制システムは、基本規定（定款、取締役会規程、常務会規程等）、組織規定（業務分掌規程、職制規程等）、人事関係規定（就業規則、賃金規則等）及び業務規定（経理規程、財務報告に係る内部統制推進規程、内部監査規程、リスク管理基本規程等）から成る規定群にその根拠を置いており、これら規定群に準拠して業務を執行することで、当社における事業経営の有効性と効率性を高め、財務報告の信頼性を確保し、事業経営に係る法令の遵守を促しております。また、その遵守状況については内部監査規程に準拠した内部監査により検証し、それらの結果は四半期ごとに取締役会に報告しております。なお、総務部及び経理部が内部統制の推進及び維持管理を行う内部統制部門としてその任に当たっております。

リスク管理体制の整備につきましては、リスク管理基本規程に基づきリスク管理責任者及びリスク管理委員会を設置し、当社におけるリスク管理推進体制を構築いたしております。また、具体的に発生したリスクへの対応につきましては、会社経営にかかわる緊急事態の定義、通報ルート、危機管理委員会の設置等について定めた「危機管理マニュアル」を制定して緊急事態の発生に備えております。今後もこの体制を強化・充実させ、リスク管理の徹底を行ってまいります。

また、子会社における業務の適正を確保するための体制としては、当社の子会社担当取締役が事業内容の報告を定期的に受け、重要案件については事前に協議を行うこととしております。

責任限定契約の内容の概要

当社と社外取締役及び社外監査役は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。なお、当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令が定める最低責任限度額としております。

取締役の定数

当社の取締役は20名以内とする旨定款に定めております。

取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨、及び累積投票によらない旨定款で定めております。

株主総会決議事項を取締役会で決議することができる事項

当社は、自己の株式の取得について、経営環境の変化に対応した経営を行うため、会社法第165条第2項の規定に基づき、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得できる旨定款で定めております。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(2) 【役員の状況】

役員一覧

男性 13名 女性 -名 (役員のうち女性の比率 -%)

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (百株)
取締役社長 (代表取締役)	山口 央	1953年 1月21日生	1976年 3月 当社入社 2000年 3月 当社東京営業部長就任 2004年 3月 当社営業部長就任 2004年 6月 当社取締役就任 2004年 6月 当社東京支店長就任 2004年 6月 当社第一事業部(現精密加工事業部)副長就任 2008年 6月 当社代表取締役社長就任(現任)	(注) 3	61
常務取締役 東京支店長 兼経営企画・I R室長 兼アルファノマス推進室長 兼総務部・人事部・経理部・ 情報システム部担当	神谷 真二	1964年 5月22日生	1987年 3月 当社入社 2010年 6月 当社経理部長就任 2014年 6月 当社取締役就任 2014年 6月 当社東京支店長就任(現任) 2014年 6月 当社人事総務部担当就任 2014年 6月 当社情報システム部担当就任(現任) 2016年 3月 当社総務部・人事部担当就任(現任) 2018年 6月 当社常務取締役就任(現任) 2018年 6月 当社経理部担当就任(現任) 2019年 4月 当社経営企画・I R室長就任(現任) 2019年11月 当社アルファノマス推進室長就任(現任)	(注) 3	19
常務取締役 精密加工事業部長	安藤 充	1958年10月18日生	1983年 3月 当社入社 2008年 3月 当社第一製造部長就任 2010年 6月 当社取締役就任 2010年 6月 当社精密加工事業部副長就任 2014年 6月 当社常務取締役就任(現任) 2014年 6月 当社精密加工事業部長就任(現任)	(注) 3	34
常務取締役 機械事業部長 兼神戸工場長 兼技術情報開発室担当	工野 浩義	1966年 5月21日生	1987年 3月 当社入社 2014年11月 当社第二製造部長就任 2018年 6月 当社取締役就任 2018年 6月 当社機械事業部副長就任 2018年 6月 当社神戸工場長就任(現任) 2019年12月 当社第二技術開発部長就任 2020年 4月 当社機械事業部長就任(現任) 2020年 4月 当社大阪営業所担当就任 2020年 6月 当社常務取締役就任(現任) 2020年 6月 当社技術情報開発室担当就任(現任)	(注) 3	5
取締役 精密加工事業部副長 兼営業部長 兼業務部長	白石 憲生	1965年 8月11日生	1988年 3月 当社入社 2013年 6月 当社営業部長就任(現任) 2014年 6月 当社取締役就任(現任) 2014年 6月 当社精密加工事業部副長就任(現任) 2017年 6月 当社業務部長就任(現任)	(注) 3	13
取締役 精密加工事業部副長 兼第一製造部長 兼次世代企画室長	松原 幸弘	1964年1月17日生	1982年 3月 当社入社 2014年 6月 当社第一製造部長就任(現任) 2018年 6月 当社次世代企画室長就任(現任) 2020年 4月 当社精密加工事業部副長就任(現任) 2020年 6月 当社取締役就任(現任)	(注) 3	11
取締役 機械事業部副長 兼第二製造部長 兼大阪営業所・ ドイツ駐在員事務所担当	石村 淳	1970年 6月 7日生	1994年 3月 当社入社 2019年 4月 当社第二製造部長就任(現任) 2020年 4月 当社機械事業部副長就任(現任) 2020年 6月 当社取締役就任(現任) 2020年 6月 当社大阪営業所担当就任(現任) 2020年 6月 当社ドイツ駐在員事務所担当就任(現任)	(注) 3	3

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (百株)
取締役	溝田 義昭	1959年4月1日生	1983年4月 古河電気工業株式会社入社 2001年9月 同社オプトコム事業部千葉通信製造部長就任 2002年6月 同社オプトコム事業部三重通信製造部長就任 2003年10月 同社情報通信カンパニー三重通信製造部長就任 2006年3月 同社情報通信カンパニー技術開発部長就任 2007年3月 同社情報通信カンパニーファイバ・ケーブル製品部長就任 2010年8月 OFS Fitel, LLC 取締役兼Senior Vice President就任 2011年4月 古河電気工業株式会社執行役員 OFS Fitel, LLC 取締役兼Senior Vice President就任 2012年4月 古河電気工業株式会社執行役員 情報通信カンパニーファイバ・ケーブル事業部門長就任 2013年4月 同社執行役員 ファイバ・ケーブル事業部門長兼電子線事業部門長就任 2015年4月 同社執行役員 生産技術本部長就任 2017年4月 同社執行役員 ものづくり改革本部長就任 2018年4月 同社執行役員常務 ものづくり改革本部長就任 2019年4月 同社ものづくり改革本部アドバイザー就任 2019年6月 同社常勤監査役就任(現任) 2020年6月 当社取締役就任(現任)	(注)3	-
取締役	尾形 昭彦	1952年7月2日生	1973年4月 株式会社大隈鐵工所(現オクマ株式会社)入社 2001年1月 同社製造本部サービス部長就任 2005年7月 同社サービス本部サービス部長就任 2009年6月 オクマ興産株式会社代表取締役社長就任 2010年6月 オクマ株式会社常勤監査役就任 2018年6月 同社特別顧問就任(現任) 2018年6月 当社取締役就任(現任)	(注)3	-
取締役	西野 充	1952年8月27日生	1975年4月 株式会社東京銀行(現株式会社三菱UFJ銀行)入行 2001年5月 株式会社東京三菱銀行(現株式会社三菱UFJ銀行)新橋支社長就任 2003年4月 同行神戸支社長就任 2006年8月 ペンタックス株式会社顧問就任 2007年1月 同社執行役員就任 2007年6月 同社執行役員CSR・内部統制統括部長就任 2008年3月 HOYA株式会社監査部ゼネラル・マネージャー就任 2008年6月 AvanStrate株式会社監査役就任 2012年6月 当社監査役就任 2016年12月 株式会社ロックオン(現株式会社イルグルム)社外取締役(監査等委員)就任(現任) 2020年6月 当社取締役就任(現任)	(注)3	20
常勤監査役	伊藤 康裕	1957年4月16日生	1980年11月 当社入社 2008年6月 当社営業部長就任 2013年6月 当社常勤監査役就任(現任)	(注)4	29

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (百株)
監査役	馬場 紀彰	1951年11月15日生	1975年4月 岡谷鋼機株式会社入社 2003年3月 同社メカトロ本部長就任 2005年5月 同社取締役メカトロ本部長就任 2009年5月 同社常務取締役就任 産業資材事業担当就任 名古屋本店長就任 2012年6月 当社監査役就任(現任) 2013年11月 岡谷鋼機株式会社代表取締役専務取締役就任 2014年5月 同社管理部門管掌就任(現任) 2020年5月 同社代表取締役副社長就任(現任)	(注)5	-
監査役	上総 英男	1958年2月23日生	1982年4月 株式会社東京銀行(現株式会社三菱UFJ銀行)入行 2006年12月 同行欧州本部欧州企画部長就任 2008年4月 同行決済事業部長就任 2011年4月 兼松株式会社執行役員就任 2011年6月 同社取締役就任 2012年3月 日本オフィスシステム株式会社監査役(社外監査役)就任 2012年6月 兼松エレクトロニクス株式会社監査役(社外監査役)就任 2014年6月 株式会社東京クレジットサービス常務取締役就任 2017年6月 同社代表取締役専務就任 2020年6月 当社監査役就任(現任)	(注)5	-
計					195

- (注) 1. 取締役溝田義昭、尾形昭彦及び西野充は社外取締役であります。
2. 監査役馬場紀彰及び上総英男は社外監査役であります。
3. 2020年6月25日開催の定時株主総会の終結の時から2年間
4. 2017年6月28日開催の定時株主総会の終結の時から4年間
5. 2020年6月25日開催の定時株主総会の終結の時から4年間
6. 当社は、法令に定める監査役の数に欠けることになる場合に備え、会社法第329条第3項に基づき補欠監査役2名を選任しております。

補欠監査役の略歴は次のとおりであります。

氏名	生年月日	略歴	所有株式数 (百株)
安井 宏	1942年10月29日生	1968年3月 当社入社 2001年6月 当社常勤監査役就任 2004年6月 当社常勤監査役退任	5
後藤 武夫	1945年4月10日生	1972年3月 弁護士登録・佐治良三法律事務所入所 1979年4月 後藤武夫法律事務所(現後藤・鈴木法律事務所)設立 2006年6月 石塚硝子株式会社社外監査役就任 2006年12月 株式会社シイエム・シイ社外監査役就任(現任) 2014年6月 石塚硝子株式会社社外取締役就任(現任)	-

社外役員の状況

当社の社外取締役は3名、社外監査役は2名であります。

社外取締役の溝田義昭氏は、当社の主要株主である古河電気工業株式会社の常勤監査役であります。当社は同社から材料を購入しておりますが、これは定例的な取引であり同氏が直接利害関係を有するものではないため、独立性は十分確保されていると考えております。同氏を社外取締役として選任したのは、同氏は古河電気工業株式会社の執行役員や監査役などを歴任し企業経営に関する豊富な経験と知見を有しており、同氏の経験と知見を当社経営に生かしていただくためであります。社外取締役の尾形昭彦氏は、当社の株主であるオークマ株式会社の特別顧問であります。当社は同社から機械部品等を購入しておりますが、これは定例的な取引であり同氏が直接利害関係を有するものではないため、独立性は十分確保されていると考えております。同氏を社外取締役として選任したのは、同氏はオークマ興産株式会社の代表取締役社長やオークマ株式会社の常勤監査役などを歴任し企業経営に関する豊富な経験と知見を有しており、また当社社外取締役に就任以降、取締役会において当社の経営課題等について有益な助言・提言等をしており、今後も当社経営に貢献していただくためであります。社外取締役西野充氏は、当社の借入先である株式会社三菱UFJ銀行の出身者であります。当社は同行と一般的な銀行取引を行っておりますが、これは通常の定例的な取引であり、同氏が直接利害関係を有するものではないため、独立性は十分確保されていると考えております。同氏を社外取締役として選任したのは、同氏はペンタックス株式会社の執行役員、AvanStrate株式会社の監査役、株式会社イルグルムの社外取締役などを歴任し企業経営に関する豊富な経験と知見を有しており、また当社社外監査役に就任以降、当社の経営課題等について有益な助言・提言等をしており、引き続き当社経営に貢献していただくためであります。社外監査役の馬場紀彰氏は、当社の仕入先及び販売先である岡谷鋼機株式会社の代表取締役副社長であります。当社は同社から材料を購入しており、また当社は同社へプレス機械等を販売しておりますが、これは定例的な取引であり同氏が直接利害関係を有するものではないため、独立性は十分確保されていると考えております。同氏を社外監査役として選任したのは、同氏は岡谷鋼機株式会社の代表取締役を務めるなど永年にわたり同社の経営に携わっており、企業経営に関する豊富な経験と知見を有しており、また当社社外監査役に就任以降、取締役会において当社の経営課題等について有益な助言・提言等をするともに、監査役会においても積極的な意見を述べており、今後も当社経営に貢献していただくためであります。社外監査役の上総英男氏は、当社の借入先である株式会社三菱UFJ銀行の出身者であります。当社は同行と一般的な銀行取引を行っておりますが、これは通常の定例的な取引であり、同氏が直接利害関係を有するものではないため、独立性は十分確保されていると考えております。同氏を社外監査役として選任したのは、同氏は兼松株式会社の取締役や株式会社東京クレジットサービスの代表取締役専務などを歴任し企業経営に関する豊富な経験と知見を有しており、同氏の経験と知見を当社経営に生かしていただくためであります。

当社は、当社の社外取締役及び社外監査役は高い独立性を維持し、それぞれが有する経営に関する豊富な経験及び見識に基づき取締役会、監査役会において意見を述べるなど、当社における公正かつ多様な価値観に基づく意思決定の形成に寄与していると判断しております。また、社外取締役及び社外監査役は、取締役会において常勤取締役及び常勤監査役とともに、内部統制部門及び各部門の内部統制活動の状況について、四半期ごとに内部監査室から報告を受けております。

なお、社外取締役及び社外監査役を選任するための当社からの独立性に関する基準又は方針については、会社法及び名古屋証券取引所が定める独立性基準によることとし、社外取締役及び社外監査役の全員について、名古屋証券取引所の定めに基づく独立役員に指定しております。

社外取締役又は社外監査役による監督又は監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

社外役員は、取締役会において、定期的に内部監査の結果について報告を受けているほか、社外監査役は、常勤監査役が出席した重要な会議の概要及び必要に応じて内部統制部門に説明を求めた事項など各種の報告を受けるとともに、定期的に会計監査人との協議の場を設けて活発な意見交換を行っております。

(3) 【監査の状況】

監査役監査の状況

監査役監査は、監査役(常勤監査役1名及び非常勤監査役2名(いずれも社外監査役))が取締役会及び常務会等の重要な会議に出席する他、取締役及び使用人等からその職務の執行状況について報告、説明などの聴取を行い、内部監査室、内部統制部門及び会計監査人と必要に応じて随時情報伝達と意見交換を行い、相互の連携を高め職務執行を十分に監視できる体制を整えております。

当事業年度において当社は監査役会を5回/年開催しており、監査結果等についての意見交換、協議等を行っております。個々の監査役の出席状況については、次の通りであります。

氏名	開催回数	出席回数
伊藤 康裕	5回	5回
馬場 紀彰	5回	5回
西野 充	5回	5回

監査役会においては、監査報告書の作成、監査の方針・業務及び財産の状況の調査方法その他監査役の職務の執行に関する決定を主な検討事項としております。

また、常勤監査役の活動としては、取締役会及び常務会やその他重要な会議への出席、また、会計監査人と定期的な意見交換を行うとともに、内部監査室との連携を通じて、監査の実効性の向上を図っております。

内部監査の状況

当社の内部監査は、社長直轄の組織として設置された内部監査室(専任者2名)が内部監査規程に基づき各部門の業務遂行状況を監査し、内部統制システムの適切性及び有効性を検証しております。また、内部統制部門とも随時情報伝達と意見交換を行うなど連携して内部統制の推進及び維持に努めております。

会計監査の状況

a. 監査法人の名称

東陽監査法人

b. 継続監査期間

52年間

c. 業務を執行した公認会計士

橋田 光正

安達 則嗣

玉田 貴彦

d. 監査業務に係る補助者の構成

当社の会計監査業務に係る補助者は、公認会計士6名、会計士試験合格者等2名となっております。

e. 監査法人の選定方針と理由

当社における会計監査人の選定基準に基づいて、会計監査人が独立性を保持し、かつ適正な監査を持続的に実施できる体制を構築していると判断しております。また、監査役会は会計監査人の職務の執行に支障がある場合など、その必要があると判断した場合は、会計監査人の解任又は不再任を決定いたします。

f. 監査役及び監査役会による監査法人の評価

当社における監査法人の品質管理には、特に問題となる行動は見受けられず、独立性等も保持されているため、監査については、有効かつ効率的に実施されているものと判断しております。

監査報酬の内容等

a. 監査公認会計士等に対する報酬

前事業年度		当事業年度	
監査証明業務に基づく報酬 (千円)	非監査業務に基づく報酬 (千円)	監査証明業務に基づく報酬 (千円)	非監査業務に基づく報酬 (千円)
21,000	-	21,000	-

非監査業務につきましては、前事業年度及び当事業年度共にありません。

b. 監査公認会計士等と同一のネットワークに対する報酬（a.を除く）
該当事項はありません。

c. その他の重要な監査証明業務に基づく報酬の内容
該当事項はありません。

d. 監査報酬の決定方針

監査報酬の決定にあたっては、監査計画の内容や従前の事業年度における職務執行状況等を踏まえ、監査品質の維持・向上と監査の効率的な実施の両面から、監査手続を確認し、監査日数等を勘案し、決定しております。上記方針に沿って監査報酬の妥当性を確認し、監査役会の同意を得て最終決定しております。

e. 監査役会が会計監査人の報酬等に同意した理由

監査役会は日本監査役協会が公表する「会計監査人との連携に関する実務指針」を踏まえ、会計監査人の監査計画、監査の実施状況及び報酬見積の算定根拠などを確認し、検討した結果、会計監査人の報酬等について同意を行っております。

(4) 【役員の報酬等】

役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針に係る事項

取締役の報酬等の額の算定方法の決定に関する方針については、常勤取締役の報酬は、内規で定められた基本報酬として支払われる固定報酬と会社業績の達成度によって変動する業績連動報酬によって構成し、社外取締役の報酬は、その役割に鑑み、内規で定められた基本報酬として支払われる固定報酬のみとし、業績連動報酬は支給しないこととしております。

また、その決定方法は、取締役会での内規の改廃等により審議しております。

取締役の報酬等に関する株主総会の決議年月日は2013年6月27日であり、決議の内容は、報酬限度額について年額180,000千円以内（使用人兼務取締役の使用人給与相当額（使用人分賞与含む）を除く）としております。

当社の役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の決定権限を有する者は、取締役会より委任を受けた取締役社長であり、その権限内容及び裁量の範囲は、毎年、取締役会の決議により、内規に則り役員の役位別の具体的金額を決めることとあります。

当事業年度における当社の役員の報酬等の額の決定過程における取締役会の活動は、2019年6月26日開催の取締役会にて、専ら取締役会で決議された内規に則り役員の役位別の具体的金額を決定することとし、その細部ならびに手続き等については取締役社長に一任する旨の決議をしております。

なお、当事業年度より、社外役員を過半数の委員とする任意の指名・報酬諮問委員会を新たに設置しており、取締役の候補者の指名及び報酬等について、客観性・透明性・適正性をより一層確保してまいります。

常勤取締役の基本報酬については、社員給与の最高額を基準とし、これを指数1.0として役位別に定めている指数を目安に決定しております。また業績連動報酬については、当期純利益（業績連動報酬控除前）に応じて各取締役の基本報酬に下表に示す係数を乗じた金額としております。業績連動報酬の指標として当期純利益を選択した理由は、当期純利益は、事業年度の活動を通じて得られた最終の期間損益であり期間の企業価値向上に直結しているため当社の企業価値向上と株主の皆様利益最大化について責任を持つ取締役の報酬決定の指標としてふさわしいものと考えたためであります。

なお、当事業年度における業績連動報酬に係る指標の目標は、当期純利益390百万円であり、その実績は404百万円でした。

監査役の報酬については、2013年6月27日開催の株主総会において決議された報酬限度額は年額36,000千円以内であり、その限度額内で監査役の決議により決定しております。なお、監査役については、その役割に鑑み、基本報酬として支払われる固定報酬のみとし業績連動報酬は支給しないこととしております。

当期純利益	係数
500,000千円以上	3.00
475,000千円以上500,000千円未満	2.95
450,000千円以上475,000千円未満	2.90
425,000千円以上450,000千円未満	2.85
400,000千円以上425,000千円未満	2.80
375,000千円以上400,000千円未満	2.75
350,000千円以上375,000千円未満	2.70
325,000千円以上350,000千円未満	2.65
300,000千円以上325,000千円未満	2.60
275,000千円以上300,000千円未満	2.50
250,000千円以上275,000千円未満	2.40
225,000千円以上250,000千円未満	2.30
200,000千円以上225,000千円未満	2.20
175,000千円以上200,000千円未満	2.10
150,000千円以上175,000千円未満	2.00
125,000千円以上150,000千円未満	1.75
100,000千円以上125,000千円未満	1.50
100,000千円未満	-

業績連動報酬の上限額は30,000千円とし、当期純利益が100,000千円未満の場合は業績連動報酬を支給いたしません。なお、各取締役の基本報酬に係数を乗じた合計額が上限額の30,000千円を超えた場合は、次のとおりといたします。

各取締役の業績連動報酬 = 基本報酬に係数を乗じた金額 × { 30,000千円 ÷ (基本報酬に係数を乗じた業績連動報酬の合計額) }

役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)				対象となる 役員の員数 (人)
		固定報酬	ストック オプション	業績連動報酬	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く。)	162,747	132,747	-	30,000	-	7
監査役 (社外監査役を除く。)	13,668	13,668	-	-	-	1
社外役員	18,480	18,480	-	-	-	4

- (注) 1. 取締役の固定報酬の額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれておりません。
2. 取締役の業績連動報酬の額は、当期における役員賞与引当金繰入額であります。

(5) 【株式の保有状況】

投資株式の区分の基準及び考え方

当社は、保有目的が純投資目的である投資株式と純投資目的以外の目的である投資株式の区分について、専ら株式の価値の変動又は株式に係わる配当によって利益を受けることを目的とする株式を純投資目的である投資株式としており、それ以外の株式を純投資目的以外の目的である投資株式としております。

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

- a. 保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容
当社は、中長期的な観点から取引先との良好な取引関係を構築し、事業の円滑な推進を図り、企業価値の維持・向上に資すると判断される場合にのみ、取引先の株式を保有しております。
当該投資株式につきましては個社別に保有目的の適切性や経済合理性について毎年取締役会での検証を実施しております。具体的には事業取引に伴う利益、保有株式の配当利回りを踏まえました総合的な便益と時価変動リスクが資本コスト等に見合っているか否かを確認し、当社の保有方針に照らし合わせたうえ、保有の適否を検証しております。

b. 銘柄数及び貸借対照表計上額

	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(千円)
非上場株式	4	36,599
非上場株式以外の株式	13	1,872,008

(当事業年度において株式数が増加した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の増加に係る取得 価額の合計額(千円)	株式数の増加の理由
非上場株式	-	-	-
非上場株式以外の株式	5	4,350	取引先持株会月例買付による取得

(当事業年度において株式数が減少した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の減少に係る売却 価額の合計額(千円)
非上場株式	-	-
非上場株式以外の株式	1	209,929

c. 特定投資株式及びみなし保有株式の銘柄ごとの株式数、貸借対照表計上額等に関する情報
特定投資株式

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株式 の 保有の有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表計上額 (千円)	貸借対照表計上額 (千円)		
株式会社パイロット コーポレーション	324,400	387,400	精密加工事業部に係わる安定的な営業取引関係の維持・強化による当社の企業価値向上が保有の目的となります。	無
	1,166,218	1,737,489		
株式会社三菱UFJ フィナンシャル・グループ	436,090	436,090	安定的な金融取引による当社の企業価値向上が保有の目的となります。	無
	175,744	239,849		
オークマ株式会社	49,200	49,200	機械事業部に係わる機械設備導入等の取引関係の維持・強化による当社の企業価値向上が保有の目的となります。	有
	171,462	294,708		
岡谷鋼機株式会社	19,600	19,600	精密加工事業部及び機械事業部に係わる安定的な営業取引関係の維持・強化による当社の企業価値向上が保有の目的となります。	有
	157,780	180,124		
三菱重工業株式会社	20,518	19,908	機械事業部に係わる安定的な営業取引関係の維持・強化による当社の企業価値向上が保有の目的となります。株式数の増加理由は取引先持株会月例買付による取得であります。	無
	56,067	91,541		
旭化成株式会社	68,495	68,495	精密加工事業部に係わる安定的な原材料等の仕入取引関係の維持・強化による当社の企業価値向上が保有の目的となります。	有
	52,384	78,221		
株式会社大真空	22,642	22,543	精密加工事業部に係わる安定的な営業取引関係の維持・強化による当社の企業価値向上が保有の目的となります。株式数の増加理由は取引先持株会月例買付による取得であります。	無
	33,624	24,008		
株式会社名古屋銀行	8,000	8,000	安定的な金融取引による当社の企業価値向上が保有の目的となります。	有
	20,912	28,560		
日東工業株式会社	10,552	10,107	精密加工事業部に係わる安定的な営業取引関係の維持・強化による当社の企業価値向上が保有の目的となります。株式数の増加理由は取引先持株会月例買付による取得であります。	無
	18,245	22,378		
株式会社みずほフィ ナンシャルグループ	102,670	102,670	安定的な金融取引による当社の企業価値向上が保有の目的となります。	無
	12,690	17,587		
株式会社ジェイテク ト	8,185	8,185	機械事業部に係わる安定的な営業取引関係の維持・強化による当社の企業価値向上が保有の目的となります。	有
	6,015	11,147		
日本特殊陶業株式会 社	323	196	精密加工事業部に係わる安定的な営業取引関係の維持・強化による当社の企業価値向上が保有の目的となります。株式数の増加理由は取引先持株会月例買付による取得であります。	無
	492	404		
大同メタル工業株式 会社	687	315	機械事業部に係わる安定的な営業取引関係の維持・強化による当社の企業価値向上が保有の目的となります。株式数の増加理由は取引先持株会月例買付による取得であります。	無
	369	223		

(注) 各銘柄の定量的な保有効果の記載は困難ですが、保有株式につきましては事業取引に伴う利益、保有株式の配当利回りを踏まえ、総合的な便益と時価変動リスクが資本コスト等に見合っているか否かを確認し、当社の保有方針に照らし合わせたうえ、保有の適否を毎年取締役会にて検証を実施しております。

保有目的が純投資目的である投資株式
該当事項はありません。

第5【経理の状況】

1．財務諸表の作成方法について

当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、事業年度（2019年4月1日から2020年3月31日まで）の財務諸表について、東陽監査法人による監査を受けております。

3．連結財務諸表について

連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則（昭和51年大蔵省令第28号）第5条第2項により、当社では、子会社の資産、売上高、損益、利益剰余金及びキャッシュ・フローその他の項目から見て、当企業集団の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する合理的な判断を誤らせない程度に重要性が乏しいものとして、連結財務諸表は作成しておりません。

なお、資産基準、売上高基準、利益基準（最近5年間の平均純損益で計算しております。）及び利益剰余金基準による割合は次のとおりであります。

資産基準	0.9 %
売上高基準	0.0 %
利益基準	1.1 %
利益剰余金基準	1.8 %

4．財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、又は会計基準の変更等についての的確に対応できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入しております。

1【財務諸表等】

(1)【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,990,116	4,241,168
受取手形	282,605	70,734
電子記録債権	1,022,592	815,425
売掛金	2,924,954	2,205,700
製品	148,630	237,054
仕掛品	2,691,767	2,510,772
原材料及び貯蔵品	695,981	645,840
前払費用	29,033	23,480
その他	56,063	45,818
貸倒引当金	6,400	4,500
流動資産合計	10,635,344	10,791,495
固定資産		
有形固定資産		
建物	6,726,544	6,781,749
減価償却累計額	4,538,367	4,660,895
建物(純額)	1,218,177	1,210,853
構築物	1,192,436	1,229,230
減価償却累計額	926,940	938,856
構築物(純額)	265,496	290,374
機械及び装置	14,743,373	14,347,631
減価償却累計額	12,933,788	12,281,047
機械及び装置(純額)	1,809,585	1,206,583
車両運搬具	191,909	193,808
減価償却累計額	155,188	164,599
車両運搬具(純額)	36,721	29,208
工具、器具及び備品	1,613,572	1,627,827
減価償却累計額	1,465,856	1,493,008
工具、器具及び備品(純額)	147,715	134,818
土地	1,615,104	1,647,760
リース資産	49,524	29,271
減価償却累計額	33,275	19,167
リース資産(純額)	16,248	10,103
建設仮勘定	147,627	106,619
有形固定資産合計	5,226,676	5,406,323

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
無形固定資産		
ソフトウェア	92,968	90,866
リース資産	11,148	7,616
その他	1,803	2,081
無形固定資産合計	105,921	100,565
投資その他の資産		
投資有価証券	2,862,843	2,008,607
関係会社株式	10,000	10,000
破産更生債権等	298	-
長期前払費用	35,543	17,202
前払年金費用	28,410	40,302
その他	126,801	127,737
貸倒引当金	298	-
投資その他の資産合計	3,063,598	2,203,851
固定資産合計	8,396,196	7,710,739
資産合計	19,031,541	18,502,235
負債の部		
流動負債		
支払手形	222,781	196,610
電子記録債務	2,052,632	1,711,359
買掛金	782,316	557,109
短期借入金	1,900,000	1,700,000
リース債務	10,449	9,182
未払金	324,366	359,427
未払費用	94,846	67,522
未払法人税等	212,518	143,464
前受金	41,400	7,855
預り金	38,933	21,503
賞与引当金	263,894	203,407
役員賞与引当金	30,000	30,000
流動負債合計	4,974,139	5,007,443
固定負債		
リース債務	19,138	9,956
繰延税金負債	216,424	904
退職給付引当金	770,022	807,193
その他	127,410	126,342
固定負債合計	1,132,996	944,396
負債合計	6,107,135	5,951,840

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,175,416	4,175,416
資本剰余金		
資本準備金	3,468,202	3,468,202
資本剰余金合計	3,468,202	3,468,202
利益剰余金		
利益準備金	449,500	449,500
その他利益剰余金		
別途積立金	2,392,500	2,392,500
繰越利益剰余金	2,384,438	2,620,093
利益剰余金合計	5,226,438	5,462,093
自己株式	1,427,532	1,431,406
株主資本合計	11,442,525	11,674,306
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,481,880	876,088
評価・換算差額等合計	1,481,880	876,088
純資産合計	12,924,405	12,550,395
負債純資産合計	19,031,541	18,502,235

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当事業年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
売上高	14,400,412	13,941,653
売上原価		
製品期首たな卸高	149,591	148,630
当期製品製造原価	12,220,015	12,041,427
合計	12,369,606	12,190,058
他勘定振替高	2 7	2 142
製品期末たな卸高	148,630	237,054
製品売上原価	4 12,220,968	4 11,952,861
売上総利益	2,179,444	1,988,791
販売費及び一般管理費		
役員報酬	155,776	164,895
給料手当及び賞与	457,598	479,848
賞与引当金繰入額	49,500	38,628
役員賞与引当金繰入額	30,000	30,000
退職給付費用	25,021	34,328
減価償却費	32,892	32,848
その他	1 864,413	1 919,594
販売費及び一般管理費合計	1,615,204	1,700,142
営業利益	564,240	288,649
営業外収益		
受取利息	566	503
受取配当金	52,487	52,192
固定資産賃貸料	3 31,154	3 31,529
その他	9,638	8,644
営業外収益合計	93,847	92,870
営業外費用		
支払利息	4,940	7,227
固定資産賃貸費用	13,951	12,995
その他	20,323	2,038
営業外費用合計	39,215	22,260
経常利益	618,872	359,258
特別利益		
投資有価証券売却益	449,987	188,639
固定資産売却益	5 9,777	-
特別利益合計	459,765	188,639
税引前当期純利益	1,078,637	547,897
法人税、住民税及び事業税	302,178	127,432
法人税等調整額	12,200	15,983
法人税等合計	314,379	143,416
当期純利益	764,258	404,480

【製造原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)		当事業年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
材料費		7,103,944	55.2	5,724,194	47.8
労務費		2,984,096	23.2	3,012,782	25.1
経費		2,780,096	21.6	3,243,576	27.1
(うち外注加工費)		(1,072,847)	(8.3)	(1,480,005)	(12.4)
(うち減価償却費)		(721,258)	(5.6)	(764,913)	(6.4)
当期総製造費用		12,868,137	100.0	11,980,553	100.0
期首仕掛品たな卸高		2,209,764		2,691,767	
合計		15,077,901		14,672,320	
他勘定振替高		166,119		120,120	
期末仕掛品たな卸高		2,691,767		2,510,772	
当期製品製造原価		12,220,015		12,041,427	

原価計算の方法

小口径銃弾は組別工程別総合原価計算、精密金属加工品は総合原価計算、プレス機械、自動機・専用機、ばね機械及び航空機部品は個別原価計算の方法を採用しております。

(注) 他勘定振替高の内訳は次のとおりであります。

(単位：千円)

内訳	前事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当事業年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
固定資産	103,987	50,027
販売費及び一般管理費	49,862	59,099
貯蔵品(消耗工具器具)	2,500	2,298
営業外費用	9,768	8,694
計	166,119	120,120

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金		利益剰余金 合計
		資本準備金	資本剰余金 合計		その他利益剰余金	繰越利益剰 余金	
				別途積立金			
当期首残高	4,175,416	3,468,202	3,468,202	449,500	2,392,500	1,819,209	4,661,209
当期変動額							
剰余金の配当						199,029	199,029
当期純利益						764,258	764,258
自己株式の取得							
株主資本以外の項目の当期変動 額（純額）							
当期変動額合計	-	-	-	-	-	565,228	565,228
当期末残高	4,175,416	3,468,202	3,468,202	449,500	2,392,500	2,384,438	5,226,438

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合 計	その他有価 証券評価差 額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	346,258	11,958,570	2,321,953	2,321,953	14,280,523
当期変動額					
剰余金の配当		199,029			199,029
当期純利益		764,258			764,258
自己株式の取得	1,081,273	1,081,273			1,081,273
株主資本以外の項目の当期変動 額（純額）			840,073	840,073	840,073
当期変動額合計	1,081,273	516,044	840,073	840,073	1,356,118
当期末残高	1,427,532	11,442,525	1,481,880	1,481,880	12,924,405

当事業年度（自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			利益剰余金 合計
		資本準備金	資本剰余金 合計	利益準備金	その他利益剰余金		
				別途積立金	繰越利益剰 余金		
当期首残高	4,175,416	3,468,202	3,468,202	449,500	2,392,500	2,384,438	5,226,438
当期変動額							
剰余金の配当						168,825	168,825
当期純利益						404,480	404,480
自己株式の取得							
株主資本以外の項目の当期変動 額（純額）							
当期変動額合計	-	-	-	-	-	235,655	235,655
当期末残高	4,175,416	3,468,202	3,468,202	449,500	2,392,500	2,620,093	5,462,093

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合 計	その他有価 証券評価差 額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	1,427,532	11,442,525	1,481,880	1,481,880	12,924,405
当期変動額					
剰余金の配当		168,825			168,825
当期純利益		404,480			404,480
自己株式の取得	3,873	3,873			3,873
株主資本以外の項目の当期変動 額（純額）			605,791	605,791	605,791
当期変動額合計	3,873	231,781	605,791	605,791	374,009
当期末残高	1,431,406	11,674,306	876,088	876,088	12,550,395

【キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当事業年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前当期純利益	1,078,637	547,897
減価償却費	771,701	814,335
貸倒引当金の増減額(は減少)	293	2,198
賞与引当金の増減額(は減少)	51,252	60,486
役員賞与引当金の増減額(は減少)	8,033	0
退職給付引当金の増減額(は減少)	41,528	37,170
受取利息及び受取配当金	53,054	52,696
支払利息	4,940	7,227
投資有価証券売却損益(は益)	449,987	188,639
売上債権の増減額(は増加)	351,300	927,951
たな卸資産の増減額(は増加)	619,197	142,711
仕入債務の増減額(は減少)	369,613	641,513
その他	299,665	2,592
小計	449,703	1,534,351
利息及び配当金の受取額	53,294	52,936
利息の支払額	4,536	7,552
法人税等の支払額	285,729	192,069
営業活動によるキャッシュ・フロー	212,732	1,387,665
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の払戻による収入	500,000	-
有形固定資産の取得による支出	1,487,255	917,176
有形固定資産の売却による収入	14,829	268
無形固定資産の取得による支出	38,517	31,495
投資有価証券の取得による支出	3,959	4,110
投資有価証券の売却による収入	539,922	209,929
その他	1,766	11,223
投資活動によるキャッシュ・フロー	476,745	753,807
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	-	800,000
自己株式の取得による支出	1,081,273	3,873
配当金の支払額	198,607	168,448
その他	12,917	10,449
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,292,798	617,228
現金及び現金同等物に係る換算差額	427	34
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	1,556,384	1,251,052
現金及び現金同等物の期首残高	4,546,500	2,990,116
現金及び現金同等物の期末残高	2,990,116	4,241,168

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 満期保有目的の債券

償却原価法(定額法)

(2) 子会社株式

総平均法による原価法

(3) その他有価証券

時価のあるもの

期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は総平均法により算定)

時価のないもの

総平均法による原価法

2. デリバティブの評価基準及び評価方法

時価法

3. たな卸資産の評価基準及び評価方法

(1) 製品・仕掛品

(小口径銃弾及び精密金属加工品)

総平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

(プレス機械、自動機・専用機、ばね機械及び航空機部品)

個別法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

(2) 原材料・貯蔵品

移動平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

4. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法(ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法)

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 10～50年

機械装置及び車両運搬具 4～10年

工具、器具及び備品 2～6年

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づいております。

(3) リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

5. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

6. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

売上債権等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員の賞与支給に充てるため、労働組合との協定に基づく期間対応額を計上しております。

(3) 役員賞与引当金

役員の業績連動報酬支給に充てるため、当事業年度末における支給見込額に基づき計上しております。

(4) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用については、その発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(13年)による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異については、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(13年)による定額法により按分した額を、それぞれ発生翌事業年度から費用処理しております。

7. ヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によることとしております。

(2) ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段...為替予約

ヘッジ対象...外貨建売上債権及び売上にかかる外貨建予定取引

(3) ヘッジ方針

ヘッジ対象に係る為替変動リスクをヘッジするために為替予約取引を行っております。

(4) ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ開始時から有効性判定時点までの期間において、ヘッジ対象とヘッジ手段の相場変動の累計を比較し、両者の変動額等を基礎にして判断しております。

8. キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

キャッシュ・フロー計算書における資金（現金及び現金同等物）は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

9. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

（未適用の会計基準等）

- ・「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日 企業会計基準委員会）
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第30号 2020年3月31日 企業会計基準委員会）
- ・「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第19号 2020年3月31日 企業会計基準委員会）

(1) 概要

国際会計基準審議会（IASB）及び米国財務会計基準審議会（FASB）は、共同して収益認識に関する包括的な会計基準の開発を行い、2014年5月に「顧客との契約から生じる収益」（IASBにおいてはIFRS第15号、FASBにおいてはTopic606）を公表しており、IFRS第15号は2018年1月1日以後開始する事業年度から、Topic606は2017年12月15日より後に開始する事業年度から適用される状況を踏まえ、企業会計基準委員会において、収益認識に関する包括的な会計基準が開発され、適用指針と合わせて公表されたものです。

企業会計基準委員会の収益認識に関する会計基準の開発にあたっての基本的な方針として、IFRS第15号と整合性を図る便益の1つである財務諸表間の比較可能性の観点から、IFRS第15号の基本的な原則を取り入れることを出発点とし、会計基準を定めることとされ、また、これまで我が国で行われてきた実務等に配慮すべき項目がある場合には、比較可能性を損なわない範囲で代替的な取扱いを追加することとされております。

(2) 適用予定日

2022年3月期の期首から適用します。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

「収益認識に関する会計基準」等の適用による財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中でありませ

- ・「時価の算定に関する会計基準」（企業会計基準第30号 2019年7月4日 企業会計基準委員会）
- ・「棚卸資産の評価に関する会計基準」（企業会計基準第9号 2019年7月4日 企業会計基準委員会）
- ・「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号 2019年7月4日 企業会計基準委員会）
- ・「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号 2019年7月4日 企業会計基準委員会）
- ・「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第19号 2020年3月31日 企業会計基準委員会）

(1) 概要

国際会計基準審議会（IASB）及び米国財務会計基準審議会（FASB）が、公正価値測定についてほぼ同じ内容の詳細なガイダンス（国際財務報告基準（IFRS）においてはIFRS第13号「公正価値測定」、米国会計基準においてはAccounting Standards CodificationのTopic 820「公正価値測定」）を定めている状況を踏まえ、企業会計基準委員会において、主に金融商品の時価に関するガイダンス及び開示に関して、日本基準を国際的な会計基準との整合性を図る取組みが行われ、「時価の算定に関する会計基準」等が公表されたものです。

企業会計基準委員会の時価の算定に関する会計基準の開発にあたっての基本的な方針として、統一的な算定方法を用いることにより、国内外の企業間における財務諸表の比較可能性を向上させる観点から、IFRS第13号の定めを基本的にすべて取り入れることとされ、また、これまで我が国で行われてきた実務等に配慮し、財務諸表間の比較可能性を大きく損なわない範囲で、個別項目に対するその他の取扱いを定めることとされております。

(2) 適用予定日

2022年3月期の期首から適用します。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

「時価の算定に関する会計基準」等の適用による財務諸表に与える影響額については、現時点で未定でありませ

「会計上の見積りの開示に関する会計基準」(企業会計基準第31号 2020年3月31日 企業会計基準委員会)

(1) 概要

国際会計基準審議会(IASB)が2003年に公表した国際会計基準(IAS)第1号「財務諸表の表示」(以下「IAS第1号」)第125項において開示が求められている「見積りの不確実性の発生要因」について、財務諸表利用者にとって有用性が高い情報として日本基準においても注記情報として開示を求めることを検討するよう要望が寄せられ、企業会計基準委員会において、会計上の見積りの開示に関する会計基準(以下「本会計基準」)が開発され、公表されたものです。

企業会計基準委員会の本会計基準の開発にあたっての基本的な方針として、個々の注記を拡充するのではなく、原則(開示目的)を示したうえで、具体的な開示内容は企業が開示目的に照らして判断することとされ、開発にあたっては、IAS第1号第125項の定めを参考とすることとしたものです。

(2) 適用予定日

2021年3月期の年度末から適用します。

「会計方針の開示、会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 2020年3月31日 企業会計基準委員会)

(1) 概要

「関連する会計基準等の定めが明らかでない場合に採用した会計処理の原則及び手続」に係る注記情報の充実について検討することが提言されたことを受け、企業会計基準委員会において、所要の改正を行い、会計方針の開示、会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準として公表されたものです。

なお、「関連する会計基準等の定めが明らかでない場合に採用した会計処理の原則及び手続」に係る注記情報の充実を図るに際しては、関連する会計基準等の定めが明らかな場合におけるこれまでの実務に影響を及ぼさないために、企業会計原則注解(注1-2)の定めを引き継ぐこととされております。

(2) 適用予定日

2021年3月期の年度末から適用します。

(追加情報)

(会計上の見積りを行う上での新型コロナウイルス感染症の影響に関する仮定)

本感染症は経済、企業活動に広範な影響を与える事象であり、また、今後の広がり方や収束時期等を予想することは困難であります。そのため、当社としては外部の情報等を踏まえて、今後、2021年3月期の一定期間にわたり当該影響が継続すると仮定し、繰延税金資産の回収可能性等の会計上の見積りを行っております。

(貸借対照表関係)

1 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
工場財団設定		
建物(本社工場)	24,624 千円	22,530 千円
機械及び装置(本社工場)	0	0
土地(本社工場)	53,274	53,274
計	77,898	75,804

担保付債務は、次のとおりであります。

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
短期借入金	460,000 千円	750,000 千円

2 期末日満期手形

期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、前事業年度の末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が期末残高に含まれております。

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
受取手形	15,642 千円	- 千円

(損益計算書関係)

1 研究開発費の総額

	前事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当事業年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
販売費及び一般管理費に含まれる 研究開発費	97,802 千円	125,316 千円

なお、前事業年度及び当事業年度の当期総製造費用には研究開発費は計上されておられません。

2 他勘定振替高の内訳は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当事業年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
販売費及び一般管理費	7 千円	142 千円

3 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれております。

	前事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当事業年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
固定資産賃貸料	16,582 千円	15,640 千円

4 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損(は戻入益)が売上原価に含まれております。

	前事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当事業年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
	66,278 千円	109,024 千円

5 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当事業年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
土地及び建物等	9,777 千円	- 千円

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首株式数(千株)	当事業年度増加株式数(千株)	当事業年度減少株式数(千株)	当事業年度末株式数(千株)
発行済株式				
普通株式	3,088	-	-	3,088
合計	3,088	-	-	3,088
自己株式				
普通株式(注)	245	431	-	676
合計	245	431	-	676

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加431千株は、取締役会決議による自己株式の取得による増加430千株、単元未満株式の買取りによる増加0千株であります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
2018年6月27日 定時株主総会	普通株式	199,029	70.0	2018年3月31日	2018年6月28日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額(千円)	配当の原資	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
2019年6月26日 定時株主総会	普通株式	168,825	利益剰余金	70.0	2019年3月31日	2019年6月27日

当事業年度（自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首株式数（千株）	当事業年度増加株式数（千株）	当事業年度減少株式数（千株）	当事業年度末株式数（千株）
発行済株式				
普通株式	3,088	-	-	3,088
合計	3,088	-	-	3,088
自己株式				
普通株式（注）	676	1	-	678
合計	676	1	-	678

（注）普通株式の自己株式の株式数の増加1千株は、単元未満株式の買取りによるものであります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

（決議）	株式の種類	配当金の総額（千円）	1株当たり配当額（円）	基準日	効力発生日
2019年6月26日 定時株主総会	普通株式	168,825	70.0	2019年3月31日	2019年6月27日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

（決議）	株式の種類	配当金の総額（千円）	配当の原資	1株当たり配当額（円）	基準日	効力発生日
2020年6月25日 定時株主総会	普通株式	168,702	利益剰余金	70.0	2020年3月31日	2020年6月26日

(キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当事業年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
現金及び預金勘定	2,990,116 千円	4,241,168 千円
現金及び現金同等物	2,990,116	4,241,168

(リース取引関係)

(借主側)

1. ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

(ア) 有形固定資産

工具、器具及び備品であります。

(イ) 無形固定資産

ソフトウェアであります。

リース資産の減価償却の方法

重要な会計方針「4. 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

2. オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
1年内	204,699	153,955
1年超	180,189	26,233
合計	384,889	180,189

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、資金運用については預金等に限定し、また、資金調達については銀行借入により調達しております。なお、デリバティブについては、投機的な取引を行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形、電子記録債権及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されていますが、当社の与信管理規程に沿ってリスク低減を図っております。

投資有価証券は、満期保有目的の債券及び株式であり、市場価格の変動リスクに晒されていますが、債券及び上場株式については四半期ごとに時価の把握を行っております。

営業債務である支払手形、電子記録債務及び買掛金は、4ヶ月以内の支払期日であります。

短期借入金は主に営業取引に係る運転資金の調達であります。

デリバティブ取引は、外貨建ての営業債権に係る為替の変動リスクに対するヘッジを目的とした為替予約取引であります。なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性の評価方法等については、前述の「重要な会計方針 7. ヘッジ会計の方法」をご参照下さい。また、デリバティブ取引の執行・管理については、取引権限等を定めた社内規程に従って行っており、デリバティブの利用にあたっては、信用リスクを軽減するために、信用度の高い金融機関とのみ取引を行っております。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額を用いております。また、注記事項「デリバティブ取引関係」におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません。

前事業年度(2019年3月31日)

	貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	2,990,116	2,990,116	-
(2) 受取手形、電子記録債権及び売掛金	4,030,152	4,030,152	-
(3) 投資有価証券			
満期保有目的の債券	100,000	95,700	4,300
その他有価証券	2,726,243	2,726,243	-
(4) 破産更生債権等	298		
貸倒引当金	298		
計	-	-	-
(5) 支払手形、電子記録債務及び買掛金	3,057,730	3,057,730	-
(6) 短期借入金	900,000	900,000	-

破産更生債権等に個別に計上している貸倒引当金を控除しております。

当事業年度（2020年3月31日）

	貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	4,241,168	4,241,168	-
(2) 受取手形、電子記録債権及び売掛金	3,091,861	3,091,861	-
(3) 投資有価証券			
満期保有目的の債券	100,000	96,730	3,270
その他有価証券	1,872,008	1,872,008	-
(4) 支払手形、電子記録債務及び買掛金	2,465,079	2,465,079	-
(5) 短期借入金	1,700,000	1,700,000	-

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法及び有価証券に関する事項

(1) 現金及び預金並びに(2) 受取手形、電子記録債権及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっており、債券は取引金融機関から提示された価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照下さい。

(4) 支払手形、電子記録債務及び買掛金並びに(5) 短期借入金

これらは短期で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

区分	前事業年度(2019年3月31日)	当事業年度(2020年3月31日)
非上場株式及び子会社株式	46,599	46,599

これらについては、市場価格がなく、かつ、将来キャッシュ・フローを見積ることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3) 投資有価証券」には含めておりません。

3. 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

前事業年度(2019年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	2,990,116	-	-	-
受取手形、電子記録債権及び売掛金	4,030,152	-	-	-
投資有価証券				
満期保有目的の債券	-	-	-	100,000
合計	7,020,268	-	-	100,000

当事業年度(2020年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	4,241,168	-	-	-
受取手形、電子記録債権及び売掛金	3,091,861	-	-	-
投資有価証券				
満期保有目的の債券	-	-	-	100,000
合計	7,333,029	-	-	100,000

(有価証券関係)

1. 満期保有目的の債券

前事業年度(2019年3月31日現在)

	種類	貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
時価が貸借対照表計上額を 超えるもの	(1) 国債・地方債等	-	-	-
	(2) 社債	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	-	-	-
時価が貸借対照表計上額を 超えないもの	(1) 国債・地方債等	-	-	-
	(2) 社債	-	-	-
	(3) その他	100,000	95,700	4,300
	小計	100,000	95,700	4,300
合計		100,000	95,700	4,300

当事業年度(2020年3月31日現在)

	種類	貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
時価が貸借対照表計上額を 超えるもの	(1) 国債・地方債等	-	-	-
	(2) 社債	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	-	-	-
時価が貸借対照表計上額を 超えないもの	(1) 国債・地方債等	-	-	-
	(2) 社債	-	-	-
	(3) その他	100,000	96,730	3,270
	小計	100,000	96,730	3,270
合計		100,000	96,730	3,270

2. 子会社株式

前事業年度(2019年3月31日現在)

子会社株式(貸借対照表計上額 10,000千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

当事業年度(2020年3月31日現在)

子会社株式(貸借対照表計上額 10,000千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

3. その他有価証券

前事業年度(2019年3月31日現在)

項目	種類	貸借対照表計上額 (千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
貸借対照表計上額が取得 原価を超えるもの	(1) 株式	2,725,615	636,621	2,088,993
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	2,725,615	636,621	2,088,993
貸借対照表計上額が取得 原価を超えないもの	(1) 株式	628	826	198
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	628	826	198
合計		2,726,243	637,448	2,088,794

(注) 非上場株式(貸借対照表計上額 36,599千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当事業年度(2020年3月31日現在)

項目	種類	貸借対照表計上額 (千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
貸借対照表計上額が取得 原価を超えるもの	(1) 株式	1,618,421	316,831	1,301,590
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	1,618,421	316,831	1,301,590
貸借対照表計上額が取得 原価を超えないもの	(1) 株式	253,586	303,677	50,090
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	253,586	303,677	50,090
合計		1,872,008	620,508	1,251,499

(注) 非上場株式(貸借対照表計上額 36,599千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

4. 売却したその他有価証券

前事業年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

種類	売却額(千円)	売却益の合計額 (千円)	売却損の合計額 (千円)
(1) 株式	542,691	449,987	-
(2) 債券	-	-	-
(3) その他	-	-	-
合計	542,691	449,987	-

当事業年度（自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）

種類	売却額（千円）	売却益の合計額 （千円）	売却損の合計額 （千円）
(1) 株式	209,929	188,639	-
(2) 債券	-	-	-
(3) その他	-	-	-
合計	209,929	188,639	-

5. 減損処理を行った有価証券

前事業年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

当事業年度において、その他有価証券について1,910千円の減損処理を行っております。

なお、当該その他有価証券の減損にあたっては、社内基準により時価のある有価証券については、時価が取得原価に比べて50%以下となった場合に、また時価のない有価証券については、実質価額が取得原価に比べて50%以下となった場合に時価が「著しく下落した」と判断し、将来、時価が回復する見込みがないものとみなして減損処理を行うこととしております。また、時価のある有価証券又は時価のない有価証券で、期末における時価又は実質価額が取得価額の30%以上50%未満下落した場合、過去の時価又は実質価額の推移を勘案して減損処理を行うこととしております。

当事業年度（自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）

該当事項はありません。

（デリバティブ取引関係）

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

(1) 通貨関連

前事業年度（2019年3月31日）

期末残高がないため、該当事項はありません。

当事業年度（2020年3月31日）

期末残高がないため、該当事項はありません。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

前事業年度（2019年3月31日）

期末残高がないため、該当事項はありません。

当事業年度（2020年3月31日）

期末残高がないため、該当事項はありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、従業員の退職給付に充てるため、確定給付企業年金制度、確定拠出年金制度及び退職一時金制度を設けております。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	前事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当事業年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
退職給付債務の期首残高	2,023,742千円	2,037,528千円
勤務費用	134,724	131,829
利息費用	12,142	12,225
数理計算上の差異の発生額	9,888	22,074
退職給付の支払額	123,192	146,443
退職給付債務の期末残高	2,037,528	2,013,065

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

	前事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当事業年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
年金資産の期首残高	1,310,475千円	1,288,852千円
期待運用収益	39,314	38,666
数理計算上の差異の発生額	38,291	81,361
事業主からの拠出額	58,858	57,782
退職給付の支払額	81,504	90,719
年金資産の期末残高	1,288,852	1,213,220

(3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金及び前払年金費用の調整表

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
積立型制度の退職給付債務	1,161,826千円	1,126,993千円
年金資産	1,288,852	1,213,220
	127,026	86,227
非積立型制度の退職給付債務	875,702	886,072
未積立退職給付債務	748,676	799,845
未認識数理計算上の差異	30,180	50,294
未認識過去勤務費用	23,116	17,339
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	741,612	766,890
退職給付引当金	770,022	807,193
前払年金費用	28,410	40,302
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	741,612	766,890

(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	前事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当事業年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
勤務費用	134,724千円	131,829千円
利息費用	12,142	12,225
期待運用収益	39,314	38,666
数理計算上の差異の費用処理額	11,890	39,172
過去勤務費用の費用処理額	5,777	5,777
確定給付制度に係る退職給付費用	113,665	138,783

(5) 年金資産に関する事項

年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
債券	55%	51%
株式	14	12
現金及び預金	15	20
その他	16	17
合計	100	100

長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(6) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
割引率	0.6%	0.6%
長期期待運用収益率	3.0	3.0

3. 確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は、前事業年度34,693千円、当事業年度34,177千円であります。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
繰延税金資産		
賞与引当金	79,326 千円	61,144 千円
退職給付引当金	231,468	242,642
未払役員退職慰労金	34,274	34,274
投資有価証券評価損	117,736	117,736
たな卸資産評価損	62,850	30,077
その他	62,759	57,359
繰延税金資産小計	588,417	543,235
評価性引当額	189,387	156,614
繰延税金資産合計	399,030	386,621
繰延税金負債		
前払年金費用	8,540	12,115
その他有価証券評価差額金	606,914	375,410
繰延税金負債合計	615,454	387,525
繰延税金資産(は負債)の純額	216,424	904

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
法定実効税率	30.0%	30.0%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.6	1.2
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.3	0.6
住民税均等割	0.8	1.5
評価性引当額の増減	2.0	6.0
その他	0.0	0.0
税効果会計適用後の法人税等の負担率	29.1	26.1

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、事業部制を採用しており、各事業部において取り扱う製品について国内及び海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社は、事業部を基礎とした製品別のセグメントから構成されており、「精密加工事業部」及び「機械事業部」の2つを報告セグメントとしております。

「精密加工事業部」は、精密金属加工品及び小口径銃弾を生産しております。「機械事業部」は、プレス機械、航空機部品及びばね機械等を生産しております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、財務諸表を作成するために採用される会計方針に準拠した方法であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部収益及び振替高は製造原価に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額に関する情報

前事業年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	財務諸表 計上額 (注) 2
	精密加工 事業部	機械 事業部	計		
売上高					
外部顧客への売上高	7,542,531	6,857,881	14,400,412	-	14,400,412
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	67,167	67,167	67,167	-
計	7,542,531	6,925,048	14,467,580	67,167	14,400,412
セグメント利益	899,439	372,339	1,271,778	707,538	564,240
セグメント資産	5,525,413	6,545,638	12,071,052	6,960,488	19,031,541
その他の項目					
減価償却費	391,156	348,768	739,925	20,382	760,308
有形固定資産及び無 形固定資産の増加額	600,703	838,636	1,439,340	48,350	1,487,690

当事業年度（自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント			調整額 (注) 1	財務諸表 計上額 (注) 2
	精密加工 事業部	機械 事業部	計		
売上高					
外部顧客への売上高	7,397,216	6,544,436	13,941,653	-	13,941,653
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	2,441	2,441	2,441	-
計	7,397,216	6,546,878	13,944,094	2,441	13,941,653
セグメント利益	723,640	315,653	1,039,293	750,644	288,649
セグメント資産	5,521,787	5,626,818	11,148,606	7,353,629	18,502,235
その他の項目					
減価償却費	425,776	357,126	782,903	20,679	803,582
有形固定資産及び無 形固定資産の増加額	564,600	421,261	985,862	9,347	995,209

(注) 1. 調整額の内容は以下のとおりであります。

セグメント利益 (単位：千円)

	前事業年度	当事業年度
全社費用	707,538	750,644

全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

セグメント資産 (単位：千円)

	前事業年度	当事業年度
全社資産	6,960,488	7,353,629

報告セグメントに帰属しない全社資産であり、主に現金及び預金、投資
有価証券等が含まれております。

その他の項目

減価償却費 (単位：千円)

	前事業年度	当事業年度
全社費用	20,382	20,679

全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

その他の項目

有形固定資産及び無形固定資産の増加額 (単位：千円)

	前事業年度	当事業年度
全社設備投資額	48,350	9,347

報告セグメントに帰属しない一般管理部門の設備投資額であります。

2. セグメント利益は、財務諸表の営業利益と調整を行っております。

【関連情報】

前事業年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

（単位：千円）

	小口径銃弾	精密金属加工品	プレス機械	自動機・専用機	その他	合計
外部顧客への売上高	3,100,401	4,442,129	3,898,690	1,007,692	1,951,498	14,400,412

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

（単位：千円）

日本	中国	アジア (中国を除く)	北米	欧州	その他	合計
10,935,624	2,596,041	607,106	251,760	5,293	4,587	14,400,412

（注）売上高は、顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外の国又は地域に在外支店は存在しないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

（単位：千円）

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
防衛省	3,033,867	精密加工事業部
Shenzhen Kedali Industry Co., Ltd.	1,756,334	機械事業部
イーグル工業株式会社	1,727,506	精密加工事業部

当事業年度（自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

（単位：千円）

	小口径銃弾	精密金属加工品	プレス機械	自動機・専用機	その他	合計
外部顧客への売上高	3,297,554	4,099,661	4,177,660	744,491	1,622,284	13,941,653

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

（単位：千円）

日本	中国	アジア (中国を除く)	北米	欧州	合計
10,008,775	3,343,478	401,138	53,643	134,618	13,941,653

（注）売上高は、顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外の国又は地域に在外支店は存在しないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

（単位：千円）

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
防衛省	3,201,138	精密加工事業部
Shenzhen Kedali Industry Co., Ltd.	2,376,668	機械事業部
イーグル工業株式会社	1,647,461	精密加工事業部

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

1. 関連当事者との取引

(ア) 財務諸表提出会社の親会社及び主要株主（会社等の場合に限る。）等
前事業年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金（千円）	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合（％）	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（千円）	科目	期末残高（千円）
その他の関係会社	オークマ株式会社	愛知県丹羽郡	18,000,180	工作機械他の製造販売	(被所有) 直接5.00	自己株式の取得 役員の兼任	自己株式の取得	1,079,835	-	-
主要株主	古河電気工業株式会社	東京都千代田区	69,395,093	金属加工品及び電線他の製造販売	(被所有) 直接19.01	金属材料の仕入	丹銅条他の仕入	441,151	電子記録債務及び買掛金	125,392

当事業年度（自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金（千円）	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合（％）	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（千円）	科目	期末残高（千円）
主要株主	古河電気工業株式会社	東京都千代田区	69,395,093	金属加工品及び電線他の製造販売	(被所有) 直接19.01	金属材料の仕入	丹銅条他の仕入	432,405	電子記録債務及び買掛金	142,476

(イ) 財務諸表提出会社の子会社及び関連会社等

前事業年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金（千円）	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合（％）	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（千円）	科目	期末残高（千円）
子会社	株式会社アステックス	愛知県尾張旭市	10,000	プレス部品の製造販売	(所有) 直接100	金型の仕入及び当社製品の検査他	金型の仕入他	188,575	買掛金	9,475
							精密金属加工品の検査他	138,170	未払金	9,423

当事業年度（自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金（千円）	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合（％）	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（千円）	科目	期末残高（千円）
子会社	株式会社アステックス	愛知県尾張旭市	10,000	プレス部品の製造販売	(所有) 直接100	金型の仕入及び当社製品の検査他	金型の仕入他	198,648	買掛金	10,924
							精密金属加工品の検査他	150,038	未払金	12,072

(ウ) 財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る。)等
前事業年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(千円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
役員	馬場紀彰	-	-	岡谷鋼機株式会社代表取締役専務取締役	-	当社監査役	黄銅板他の仕入	410,732	電子記録債務及び買掛金	200,574

当事業年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(千円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
役員	馬場紀彰	-	-	岡谷鋼機株式会社代表取締役専務取締役	-	当社監査役	黄銅板他の仕入	332,348	電子記録債務及び買掛金	145,011

- (注) 1. オークマ株式会社からの自己株式の取得については、2018年5月10日開催の取締役会決議に基づき、名古屋証券取引所の自己株式立会外買付取引(N-NET3)により取得しており、取引金額は取引前日の終値によるものであります。
2. オークマ株式会社は当社の株式の19.48%を保有しておりましたが、自己株式の取得により関連当事者でなくなりました。上記には関連当事者に該当する期間における実績を記載しております。
3. 上記(ア)~(ウ)の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。
4. 岡谷鋼機株式会社との取引はいわゆる第三者のための取引であります。
5. 取引条件及び取引条件の決定方針等
古河電気工業株式会社、岡谷鋼機株式会社及び株式会社アステックスからの仕入については見積りを入手し、協議の上価格を決定しております。

(1 株当たり情報)

	前事業年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月 31日)	当事業年度 (自 2019年 4月 1日 至 2020年 3月 31日)
1株当たり純資産額	5,358.83円	5,207.56円
1株当たり当期純利益金額	308.38円	167.73円

(注) 1. 潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (2019年 3月 31日)	当事業年度 (2020年 3月 31日)
純資産の部の合計額(千円)	12,924,405	12,550,395
純資産の部の合計額から控除する金額 (千円)	-	-
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	12,924,405	12,550,395
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末 の普通株式の数(千株)	2,411	2,410

3. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月 31日)	当事業年度 (自 2019年 4月 1日 至 2020年 3月 31日)
当期純利益金額(千円)	764,258	404,480
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る当期純利益金額(千円)	764,258	404,480
普通株式の期中平均株式数(千株)	2,478	2,411

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価償却累計額又は償却累計額 (千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末残高 (千円)
有形固定資産							
建物	6,726,544	65,309	10,104	6,781,749	4,660,895	130,393	2,120,853
構築物	1,192,436	50,486	13,692	1,229,230	938,856	25,608	290,374
機械及び装置	14,743,373	757,343	1,153,085	14,347,631	12,281,047	498,172	2,066,583
車両運搬具	191,909	14,167	12,268	193,808	164,599	21,680	29,208
工具、器具及び備品	1,613,572	79,025	64,770	1,627,827	1,493,008	91,762	134,818
土地	615,104	32,656	-	647,760	-	-	647,760
リース資産	49,524	-	20,253	29,271	19,167	6,144	10,103
建設仮勘定	147,627	91,683	132,691	106,619	-	-	106,619
有形固定資産計	25,280,093	1,090,671	1,406,867	24,963,898	19,557,575	773,760	5,406,323
無形固定資産							
ソフトウェア	-	-	-	173,854	82,988	37,020	90,866
リース資産	-	-	-	16,926	9,309	3,531	7,616
その他	-	-	-	2,103	22	22	2,081
無形固定資産計	-	-	-	192,885	92,320	40,574	100,565
長期前払費用	35,543	188	18,529	17,202	-	-	17,202

(注) 1. 当期増加額のうち主なものは、次のとおりであります。

機械及び装置 精密金属加工品製造設備383,397千円及び金属加工機械製造設備232,353千円であります。

当期減少額のうち主なものは、次のとおりであります。

機械及び装置 航空機部品製造設備1,093,683千円であります。

2. 無形固定資産の金額が資産総額の1%以下であるため「当期首残高」「当期増加額」及び「当期減少額」の記載を省略しております。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	900,000	1,700,000	0.561	-
1年以内に返済予定の長期借入金	-	-	-	-
1年以内に返済予定のリース債務	10,449	9,182	-	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	-	-	-	-
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	19,138	9,956	-	2021年～ 2023年
その他有利子負債	-	-	-	-
計	929,588	1,719,138	-	-

- (注) 1. 平均利率については、期中平均借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。
 2. リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。
 3. リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の貸借対照表日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
リース債務	7,964	1,991	-	-

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	6,698	-	-	2,198	4,500
賞与引当金	263,894	203,407	263,894	-	203,407
役員賞与引当金	30,000	30,000	30,000	-	30,000

- (注) 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」は、破産更生債権等の一部を回収したことによる戻入298千円及び一般債権の貸倒実績率の見直しによる戻入1,900千円であります。

【資産除去債務明細表】

該当事項はありません。

(2)【主な資産及び負債の内容】

流動資産

イ．現金及び預金

区分	金額(千円)
現金	3,179
預金	
当座預金	3,788,281
普通預金	449,004
別段預金	702
小計	4,237,989
合計	4,241,168

ロ．受取手形

相手先別内訳

相手先	金額(千円)
江東電気株式会社	15,838
株式会社サステック	14,045
株式会社岡本製作所	10,889
日鋼Y P K商事株式会社	9,020
フジクラ電装株式会社	7,231
その他	13,710
合計	70,734

期日別内訳

期日別	金額(千円)
2020年4月	24,082
5月	6,961
6月	24,824
7月	14,865
合計	70,734

八．電子記録債権
相手先別内訳

相手先	金額（千円）
イーグル工業株式会社	570,716
日本発條株式会社	121,257
日発販売株式会社	50,462
大同メタル工業株式会社	14,190
河村電器産業株式会社	12,522
その他	46,276
合計	815,425

期日別内訳

期日別	金額（千円）
2020年 4月	215,484
5月	178,792
6月	245,295
7月	172,366
8月	2,293
9月	1,192
合計	815,425

二．売掛金
相手先別内訳

相手先	金額（千円）
防衛省	505,167
パイロットインキ株式会社	283,645
ショット日本株式会社	189,079
イーグル工業株式会社	163,901
日本特殊陶業株式会社	157,250
その他	906,656
合計	2,205,700

売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

当期首残高 （千円）	当期発生高 （千円）	当期回収高 （千円）	当期末残高 （千円）	回収率（％）	滞留期間（日）
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A) + (B)} \times 100$	$\frac{(A) + (D)}{2} - \frac{(B)}{366}$
2,924,954	14,812,080	15,531,334	2,205,700	87.6	63.4

（注） 当期発生高には消費税等が含まれております。

ホ．製品

品目	金額（千円）
精密金属加工品各種	146,221
プレス機械各種	50,629
ばね機械各種	33,197
その他	7,006
合計	237,054

ヘ．仕掛品

品目	金額（千円）
プレス機械各種	1,312,433
ばね機械各種	408,825
精密金属加工品各種	360,601
小口径銃弾各種	240,229
自動機・専用機各種	134,299
その他	54,382
合計	2,510,772

ト．原材料及び貯蔵品

品目	金額（千円）
原材料	
ばね機械部品	126,371
伸銅品	103,538
プレス機械部品	85,081
磨帯鋼	75,687
火薬	56,031
その他	56,458
小計	503,170
貯蔵品	
消耗工具器具備品	139,934
油脂薬品	802
その他	1,933
小計	142,670
合計	645,840

固定資産
投資有価証券

区分	金額（千円）
株式	1,908,607
債券	
その他	100,000
合計	2,008,607

流動負債
イ．支払手形
相手先別内訳

相手先	金額（千円）
株式会社石田組	36,700
株式会社豊盛	26,257
日進メック株式会社	22,970
仁淀鉄鋼株式会社	11,891
田辺精機株式会社	8,008
その他	90,783
合計	196,610

期日別内訳

期日別	金額（千円）
2020年 4月	46,369
5月	69,823
6月	28,085
7月	52,331
合計	196,610

ロ．電子記録債務
相手先別内訳

相手先	金額（千円）
旭化成株式会社	137,906
古河電気工業株式会社	121,496
岡谷鋼機株式会社	97,981
昭和金属工業株式会社	91,030
三菱商事テクノス株式会社	89,789
その他	1,173,156
合計	1,711,359

期日別内訳

期日別	金額（千円）
2020年 4月	416,179
5月	472,957
6月	384,008
7月	438,214
合計	1,711,359

八．買掛金
相手先別内訳

相手先	金額（千円）
日本特殊陶業株式会社	83,248
岡谷鋼機株式会社	47,030
旭化成株式会社	35,063
安田工機株式会社	26,188
古河電気工業株式会社	20,980
その他	344,599
合計	557,109

（３）【その他】

当事業年度における四半期情報等

（累計期間）	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	当事業年度
売上高（千円）	2,974,273	6,622,712	9,821,813	13,941,653
税引前四半期（当期）純利益金額（千円）	22,299	151,249	258,701	547,897
四半期（当期）純利益金額（千円）	14,309	107,079	190,241	404,480
1株当たり四半期（当期）純利益金額（円）	5.93	44.4	78.88	167.73

（会計期間）	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	第 4 四半期
1株当たり四半期純利益金額（円）	5.93	38.47	34.48	88.86

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り・買増し	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	
買取・買増手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、中日新聞に掲載して行います。 公告掲載URL http://www.aspir.co.jp/koukoku/6111/6111.html
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、会社法第166条第1項の規定による請求をする権利、株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利並びに単元未満株式の売渡請求をする権利以外の権利を有しておりません。

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

- (1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書
事業年度（第70期）（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）2019年6月26日東海財務局長に提出
- (2) 内部統制報告書及びその添付書類
2019年6月26日東海財務局長に提出
- (3) 四半期報告書及び確認書
（第71期第1四半期）（自 2019年4月1日 至 2019年6月30日）2019年8月13日東海財務局長に提出
（第71期第2四半期）（自 2019年7月1日 至 2019年9月30日）2019年11月14日東海財務局長に提出
（第71期第3四半期）（自 2019年10月1日 至 2019年12月31日）2020年2月14日東海財務局長に提出
- (4) 臨時報告書
2019年6月28日東海財務局長に提出
企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）に基づく臨時報告書であります。
- (5) 有価証券報告書の訂正報告書及び確認書
2019年7月4日東海財務局長に提出
事業年度（第70期）（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）の有価証券報告書に係る訂正報告書及びその確認書であります。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

旭精機工業株式会社
取締役会 御中

2020年6月25日

東陽監査法人
名古屋事務所

指定社員 業務執行社員	公認会計士	橋田 光正	印
指定社員 業務執行社員	公認会計士	安達 則嗣	印
指定社員 業務執行社員	公認会計士	玉田 貴彦	印

<財務諸表監査>

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている旭精機工業株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの第71期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、旭精機工業株式会社の2020年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

< 内部統制監査 >

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、旭精機工業株式会社の2020年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

当監査法人は、旭精機工業株式会社が2020年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準における当監査法人の責任は、「内部統制監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

内部統制報告書に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告に係る内部統制の整備及び運用状況を監視、検証することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

内部統制監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した内部統制監査に基づいて、内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、内部統制監査報告書において独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための監査手続を実施する。内部統制監査の監査手続は、監査人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。
- ・ 財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討する。
- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、内部統制報告書の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した内部統制監査の範囲とその実施時期、内部統制監査の実施結果、識別した内部統制の開示すべき重要な不備、その是正結果、及び内部統制の監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBR Lデータは監査の対象には含まれていません。